



ForceMaster 9000

取扱説明書

このたびは、シマノ ForceMaster 9000 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存していただきますようお願い申し上げます。

安全上のご注意	2	船べり自動停止	42
特長	8	アラーム（船べり）	43
探見丸システムについて	11	棚または底の水深をメモリーする方法	44
各部の名称	12	棚アラーム	45
デジタルカウンターの各部の名称	13	2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード	46
メニューボタンの操作	14	上からモードの実釣編	47
電源とケーブルについて	16	底からモードの実釣編	48
学習方法	18	2通りの巻き上げ方・楽楽モードと速度一定モード	49
学習方法 1. 簡単・便利な NEW SLS III PE ライン学習（E1）	20	さそい「3段シャクリ」の再現	51
学習方法 2. 簡単・便利な NEW SLS III ナイロン・フロロ学習（E2）	22	さそいの学習	53
学習方法 3. 簡単・便利な NEW SLS III 下巻き学習（E3）	24	仕掛回収時間	57
学習方法 4. 従来の SLS II PE ライン学習（L1）	28	糸巻学習補正	58
学習方法 5. 従来の SLS II 下巻き学習（L2）	30	探見丸システム接続時の機能一覧	60
糸巻学習後の手順	34	お取り扱い上の注意	62
色々なテクニク	37	仕様	67
0（ゼロ）セットの設定	38	故障かな？と思われたときは	68
高切れの補正	40	製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内	70
S A-RB	41	サービスネット	71

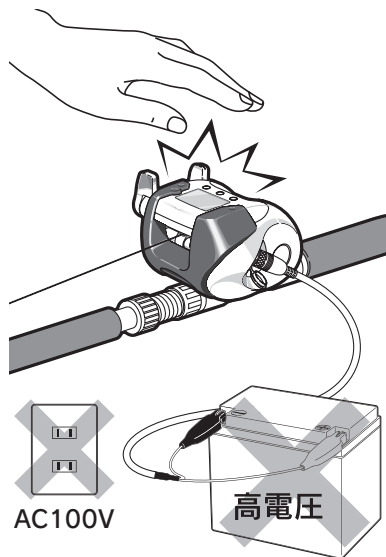
ご使用前に必ずお読みください。

警告



高温注意

- バッテリー、船電源の所定電圧（DC 12～14.8ボルト）以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。
- 家庭用交流電源につながないでください。回路が破損し発火発煙の恐れがあります。
- 電源コネクターやワニ口クリップに異常な発熱があった場合は、使用を中止してください。



AC100V

高電圧

警告



警告

- 電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。そのままご使用になられますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を一つ上げてご使用ください。



警告

- バッテリーマーク（**B**または**[I]**）が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンターユニットに負荷が加わり故障の原因となりますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用下さい。



警告

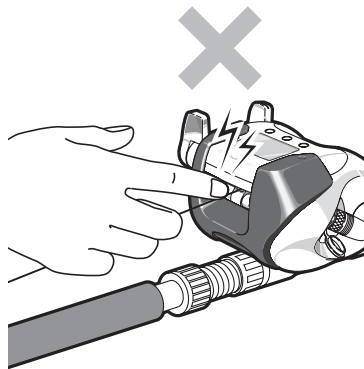
- 船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク（**B**または**[I]**）が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ（大電流が流れる）を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

警告



指をはさまれない よう注意

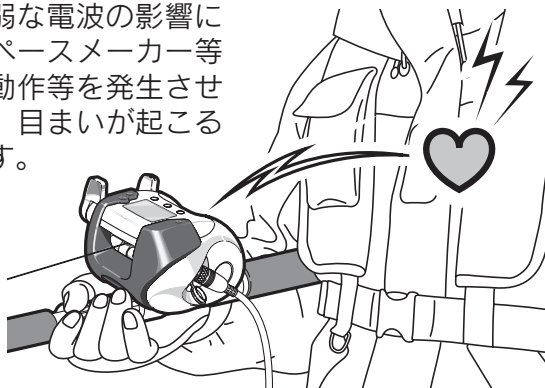
- 糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。
- ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。



- 電動リールの微弱な電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等を発生させてご使用者に動悸、目まいが起こる場合がございます。



警告

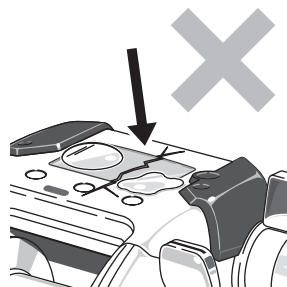


警告



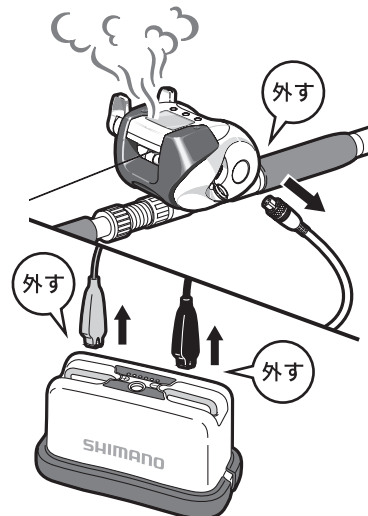
警告

- カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐにケーブルを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。
- 電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なく恐れがあります。



警告

- 電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。
- 巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクターを外すか、バッテリーからワニ口クリップを外してください。

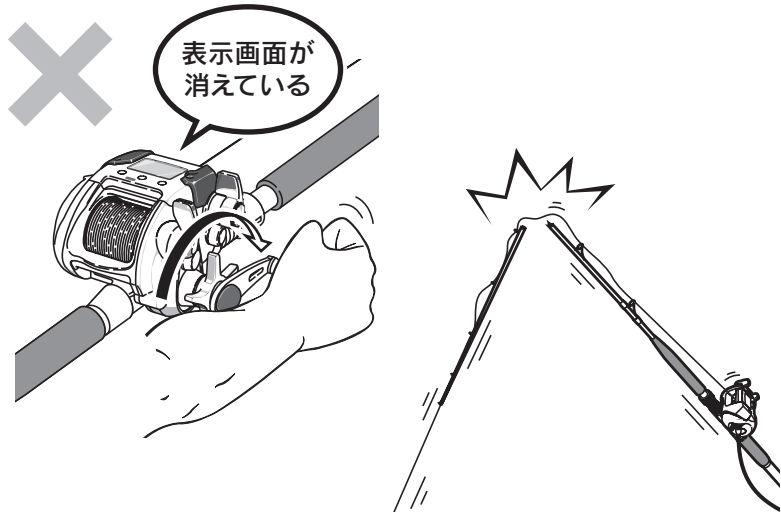


⚠ 注意



注意

- 電動リールをご使用中、表示画面が消えた時にリールのハンドルを使用し巻き上げると、正常にラインのカウントが出来ません。（※ラインとカウント表示に誤差が発生します。）そして表示画面が復帰後、電動リールのモーターで巻き上げると船べり停止が出来ず、仕掛け巻き込みの原因となります。場合によっては穂先を破損する可能性がありますので、表示画面が消えた場合はその原因を取り除き、表示画面が復帰した後でライン回収を行ってください。



⚠ 注意



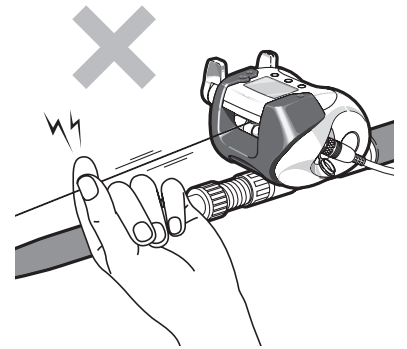
注意

- メッキや塗装等の表面処理が剥がれたり、強い衝撃等により素材の表面が鋭利になった場合には、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



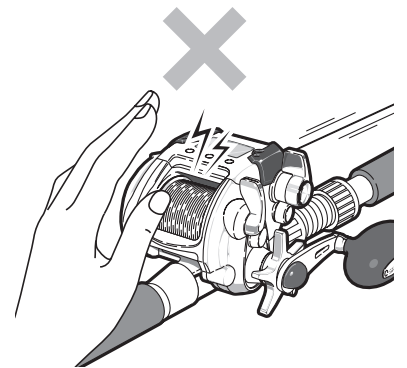
指をはさまれないよう注意

- 糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。



回転物注意

- 回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。

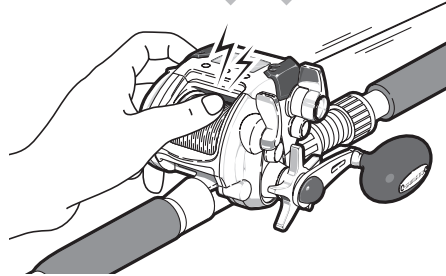


⚠ 注意



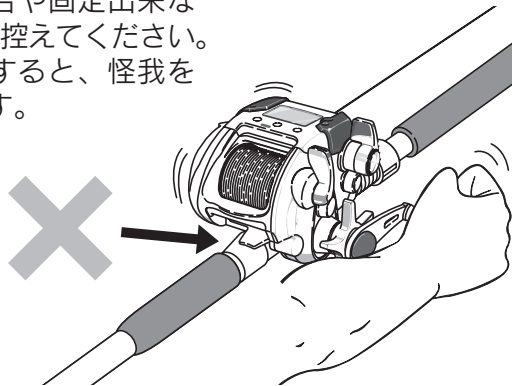
回転物注意

- 指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。指を怪我したり、切断する恐れがあります。



注意

- 電動リールはリールシートにしっかりと固定してご使用ください。ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。

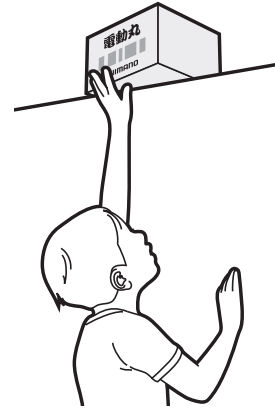


⚠ 注意



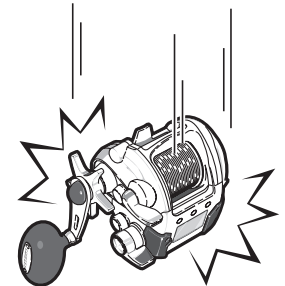
注意

- 幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。



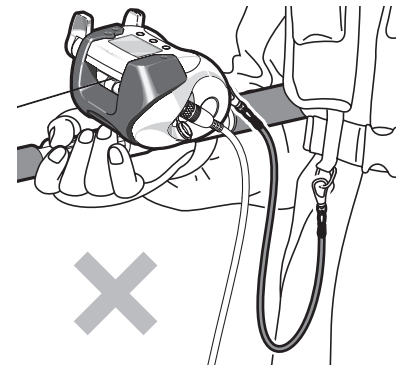
注意

- 落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。強い衝撃が加わらないようにしてください。



注意

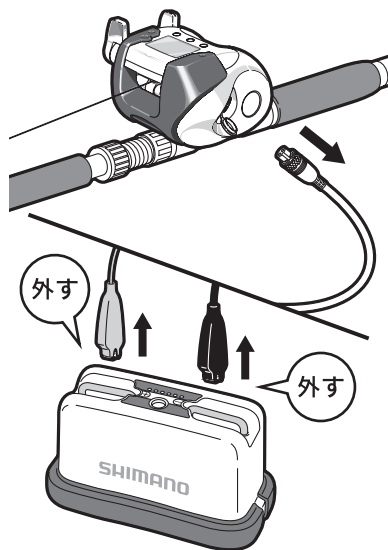
- ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。



⚠ 注意

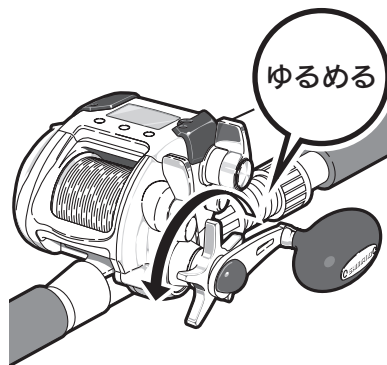
⚠ 注意

- 釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ずケーブルをバッテリーから外して行ってください。急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。



⚠ 注意

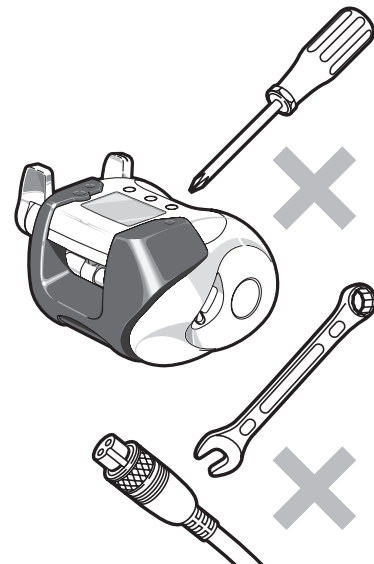
- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。



⚠ 注意

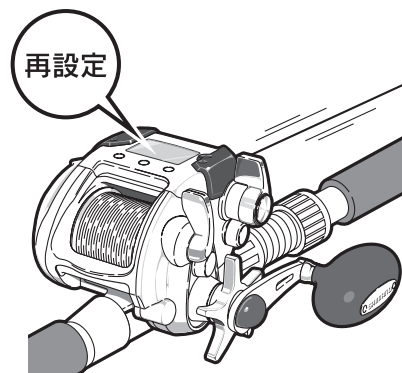
⊘ 分解禁止

- 本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が働かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。
- ケーブルの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。



⚠ 注意

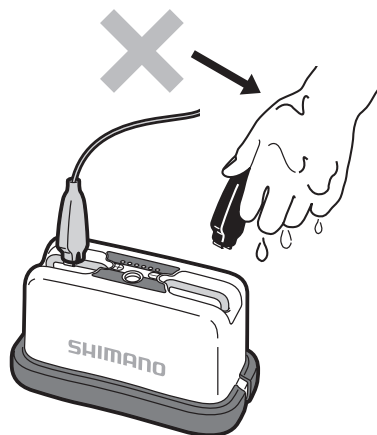
- 船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズれる事があります。停止位置がズれてきた場合は「0セット」して補正してください。停止位置がズれると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。



⚠ 注意

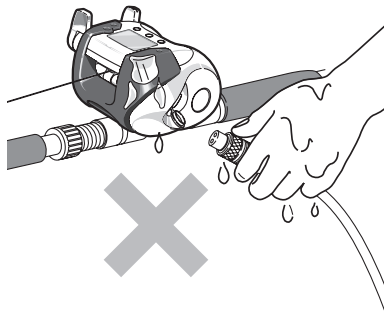
⚠ 注意

- 濡れた手でケーブルのワニ口クリップの金属部やバッテリー、船電源の端子を触らないでください。感電する恐れがあります。



⚠ 注意

- ケーブルを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。



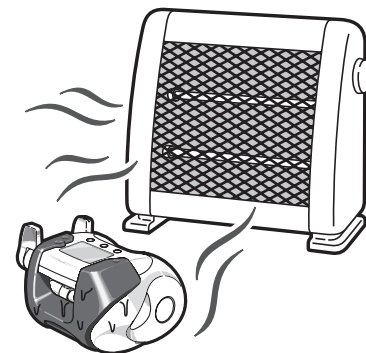
注意

- 根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

⚠ 注意

⚠ 注意

- メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っての乾燥は止めてください。樹脂が変形したりする恐れがあります。



モーターの誤作動についてのご注意

- 本電動リール表示部は10mの耐水圧性能により防水が確保されています。しかし、落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起こり内部に海水が浸入した場合、モーター制御がなくなる事があります。突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、ケーブルを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せ下さい。
- 本電動リールの使用電源保証範囲はDC12～14.8Vまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。



コマセ振りや仕掛け回収のタイミングを計る目安に…
柵タイマー。 P13参照
仕掛けが目標の柵に到達してからの経過時間を表示します。



糸落のスピードを安定させ、釣果UPに…
糸落スピードの目安を表示。 P13参照



魚の大きさや匹数の目安などに…
電動巻上負荷表示。 P13参照



錆、塩噛みに強いボールベアリング…
シールドタイプS A-RB内蔵。 P41参照
従来のA-RB (アンチラストベアリング) の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させた S A-RBを適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現! A-RB処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による"塩噛み"をも減少させています。



2種類の巻き上げ方法を状況に応じて選択可能な…
「楽楽モード」「速度一定モード」切り替え。 P49~50参照
ラインテンション一定の「楽楽モード」と、スプール回転一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。



このクラストップレベルの…
軽量コンパクト化を実現。



さらに磨きのかかった…
ハイスピード&ハイパワーを装備。



より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…
0 (ゼロ) セット。 P38~39参照
シカケが水面にあるときに0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…
船べり自動停止。 P42~43参照
船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。



シカケ回収にかかる時間を表示…
仕掛回収時間。 P57参照
電動巻き上げ時に、シカケが船べりに回収されるまでにかかる時間を表示します。



高切れをワンタッチで修正する…
高切れ補正。 P40参照
高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。



レバー操作で巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整…
テクニカルレバー。 P12・49~50参照



プログラマ不要の新SLS方式…

SLS III (シマノ・ラインプログラム・システム3) 搭載。

簡単・便利になりました。
より正確な棚取りが可能です。 P18 ~ 33 参照



カウンターと道糸のズレを釣り場で補正…

糸巻学習補正。

P58 ~ 59 参照



メモリーした水深をメモ欄に表示…

棚メモ。

棚または底の水深をメモリーして表示しておけます。底からモード時はメモ位置を0とした水深をメモ欄に表示します。 P44 ~ 45 参照



メモ水深の表示方法を選択できる…

「上からモード」「底からモード」切り替え。

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えられます。上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置を0とした水深が確認できます。 P46 ~ 48 参照



より速くシカケを落とす…

糸送り機能。

P13・37 参照



名人のイカのさそいをリールが再現…

さそい「3段シャクリ」再現。

電動リールにあらかじめ入力されている「3段シャクリ」が再現できます。 P51 ~ 52 参照

※「さそい機能」がONの場合、0セット変更ができない場合があります。0セット/決定ボタンを押す場合は「さそい」をOFFにしてから行ってください。

あなたの釣技をリールが学習する…

テクニックマスター。 P53 ~ 56 参照

釣人の学習させた「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター(TM)。モーターのON/OFFによる入力、手巻き操作による入力とも、マイコンによるファジー制御で釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールがそのまま再現します。

※「さそい機能」がONの場合、0セット変更ができない場合があります。0セット/決定ボタンを押す場合は「さそい」をOFFにしてから行ってください。

探見丸システムを組み合わせれば、
さらに便利に！



船べりで魚探が見える！

探見丸システム対応。

P11・60～61 参照

探見丸と組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

釣技の再現がさらに便利に、詳細に設定可能…

テクニックマスター。

P60 参照

釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター (TM) が、探見丸で便利に操作できます。あらかじめインプットされた代表的なさそいパターンの使用や、さそい幅の指定などが可能です。また、操作を覚える必要はなく、ディスプレイの説明にそって操作をすれば簡単にマスターできます。

※「さそい機能」がONの場合、0セット変更ができない場合があります。0セット/決定ボタンを押す場合は「さそい」をOFFにしてから行ってください。



本文の説明中に
次のようなマークが
出てきた場合は…

指し示された
ボタンを**3秒未満**
チョイ押しして
ください。



ワンタッチ

指し示された
ボタンを**3秒以上**
長押しして
ください。



3秒以上

ご注意：

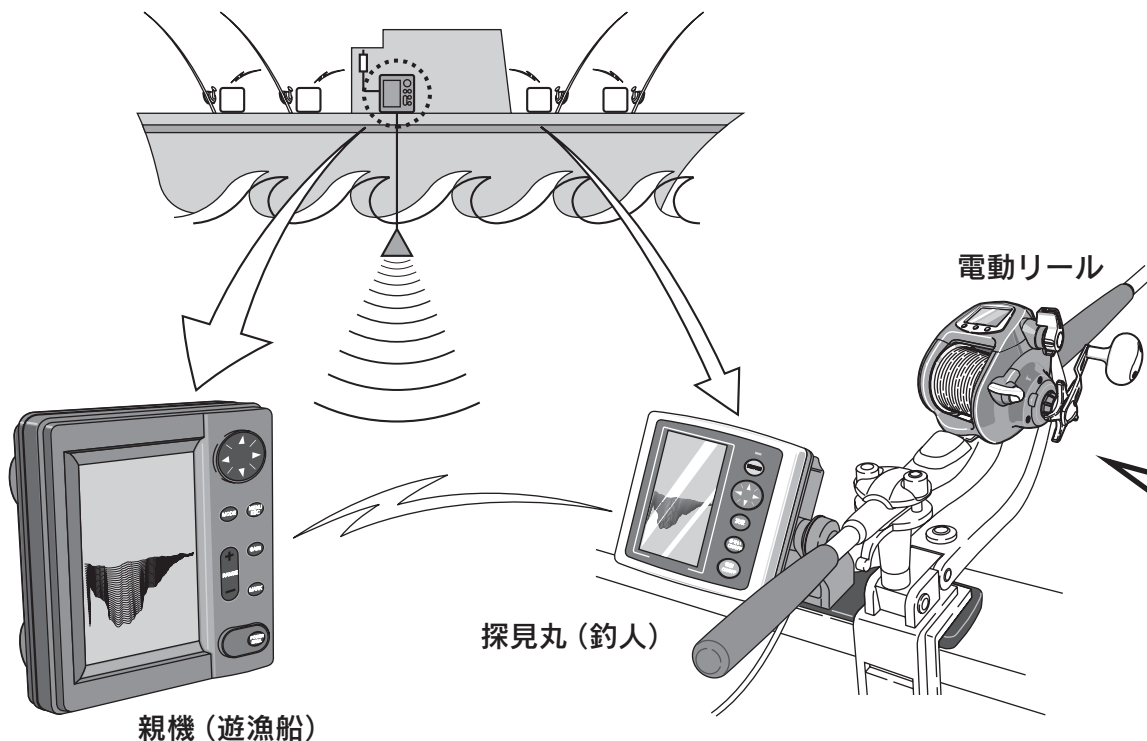
本文の説明中に出てくるカウンタ内の数値・設定などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。



探見丸システム 親機からの魚探映像を無線でキャッチ。船べりで魚探が見える！

あらかじめ遊漁船に設置された親機魚探からの情報を探見丸がキャッチ。釣座に居ながらにして魚探の映像を見ることができ、画期的なシステムです。[探見丸対応遊漁船につきましては、弊社ホームページ、パンフレット等をご覧ください。]

※ご注意 探見丸に映る映像はご自身の位置ではなく、親機送受波器の位置映像です。



さらに探見丸システム対応電動リールと組み合わせることで、双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。

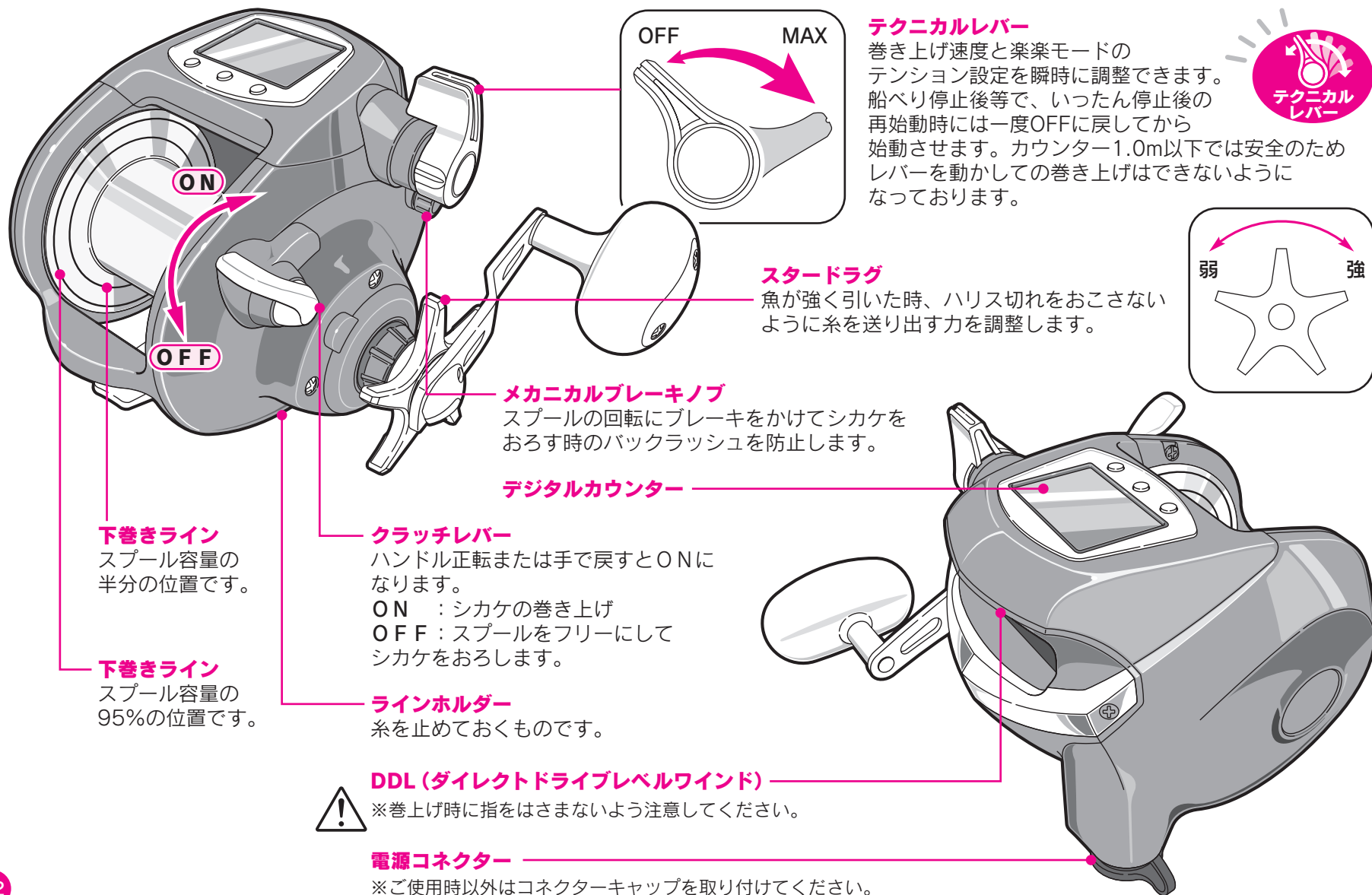
1. 電動リールの操作が探見丸で可能に
[さそい、棚停止、オートシャクリetc.]
2. 電動リールからのデータを探見丸で表示
[リール水深、棚タイマーetc.]
3. 双方のデータを組み合わせてより便利な情報を表示
[シカケ軌跡、さそい幅etc.]

※この電動リールでは棚停止・オートシャクリの操作はできません。電動リールの機種によって使える機能は異なります。

この電動リールは探見丸システム対応機種です。

探見丸システムを組み合わせた場合の機能については60～61ページをご覧ください。

各部の名称



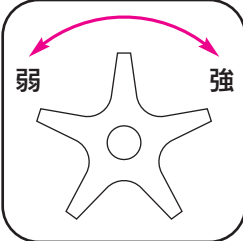
テクニカルレバー

巻き上げ速度と楽楽モードのテンション設定を瞬時に調整できます。船べり停止後等で、いったん停止後の再始動時には一度OFFに戻してから始動させます。カウンター1.0m以下では安全のためレバーを動かしての巻き上げはできないようになっております。



スタードラグ

魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさないように糸を送り出す力を調整します。



メカニカルブレーキノブ

スピールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します。

デジタルカウンター

下巻きライン

スピール容量の半分の位置です。

下巻きライン

スピール容量の95%の位置です。

クラッチレバー

ハンドル正転または手で戻すとONになります。

ON : シカケの巻き上げ

OFF : スピールをフリーにしてシカケをおろします。

ラインホルダー

糸を止めておくものです。

DDL (ダイレクトドライブレベルwind)

※巻き上げ時に指をはさまないように注意してください。

電源コネクター

※ご使用時以外はコネクターキャップを取り付けてください。

デジタルカウンターの各部の名称

◎自動糸送り機能

シカケをおろす時、船べり停止位置プラス5mで自動的にモーターがONになり、スプールの抵抗を極力少なくします。機能がOFFの時は左側の▶が点灯します。(例：船べり停止位置が1mの場合は6mでONになります。)

◎底からモード

底からモード時は左側に▶が点灯します。▶の点灯がない時は上からモードです。

◎現在の水深

水面からの水深を表示します。

※水深は10cm単位です。

100m以上は右図のように1m単位になります。

99.9 → 100

◎テクニカルレバーの設定値

楽楽モード、速度一定モードの設定値を表示しています。

◎棚タイマー

仕掛けが目標の棚に到達してからの経過時間を表示します。

※0~59秒は1秒単位、

1~99分は1分単位で表示します。

100分経過すると0秒に戻ります。

◎糸落スピード表示

糸落のスピードの目安を表示します。

※表示中は“() ”が点滅します。

◎各種表示

底：底からモード時に点灯します。

速：速度一定モード時に点灯します。

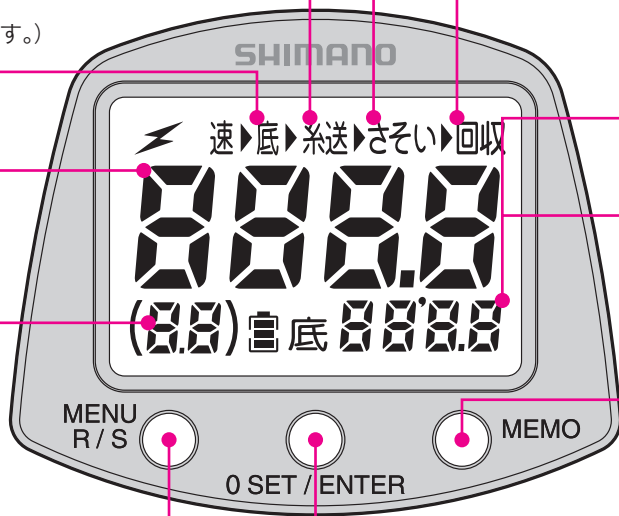
⚡：探見丸と接続時に点灯します。

🔋：バッテリーまたは電源の電圧を

下図のようにお知らせします。

- 🔋：十分な電圧 (点灯)
- 🔋：やや不足した電圧 (点灯)
- 🔋：不足した電圧 (点滅)

●図は説明のために液晶を全部点灯させています。



◎さそいモード

さそいモード時は左側に▶が点灯します。

◎仕掛回収時間

仕掛回収時間 ON時(左側に▶が点灯)は電動巻き上げの際、シカケ回収にかかる時間を「◎棚メモ」の部分に表示します。

◎棚メモ

上からモード時はメモした水深、底からモード時はメモ位置をゼロと表示します。

◎電動巻上負荷表示

モーターで巻き上げ時、ラインテンションの目安を表示します。負荷の大きさにより、数字が「0~15」まで変化します。

※仕掛回収時間がON時、電動巻上負荷表示は無効になります。

■MEMO ボタン (メモボタン)



棚をメモします。選択しているモードにより、表示される内容は異なります。

■MENU・R/S ボタン (メニュー・楽/速ボタン)



3秒以上 3秒以上押すとメニューモードに入り、続けて押すごとに (3秒未満押し) 底・糸送・さそい・回収が順に点滅しさらに押すと標準画面に戻ります。決定ボタンと合わせて使用します。



押すごとに速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。巻き上げ中の操作も可能です。現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。

R (楽楽モード)：緑のバックライト

S (速度一定モード)：オレンジのバックライト (「速」点灯)

■0 SET / ENTER ボタン (0セット/決定ボタン)



メニューボタンで点滅表示にした機能のON/OFFに使用します。



0セットします。シカケを水面に合わせて0セットしてください。

※探見丸・電動丸の「さそい機能」がONの場合、0セットできない場合があります。必ず「さそい」をOFFにしてから行ってください。

メニューボタンの操作

メニューボタンの操作

下記を行う場合に操作してください。

- ・底からモード ON/OFF
- ・自動糸送り機能 ON/OFF
- ・さそいモード ON/OFF
- ・仕掛回収時間 ON/OFF

- 標準モードの時に3秒以上押すとメニューモードに入ります。

続けて押すごとに（3秒未満押し）底・糸送・さそい（P1）・さそい（P2）・回収の表示が順に点滅（設定画面）になり、さらに押すと標準モードに戻ります。

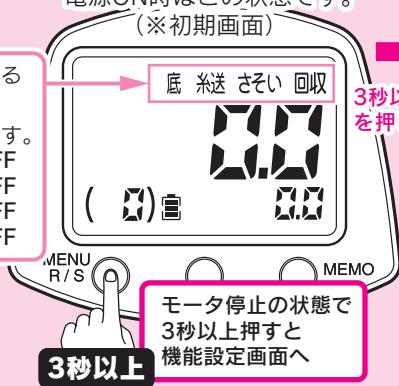
- 変更する機能が点滅の時に決定ボタンを押せばON/OFFが切り替わった後、標準モードに戻ります。

- 標準モード（初期画面）から設定を変えられた場合、電源をOFFされましても設定は記憶されます。

左側に▶が点灯している機能は現在ONです。
図の場合下記の設定です。
底からモード … OFF
自動糸送り機能 … OFF
さそいモード … OFF
仕掛回収時間 … OFF

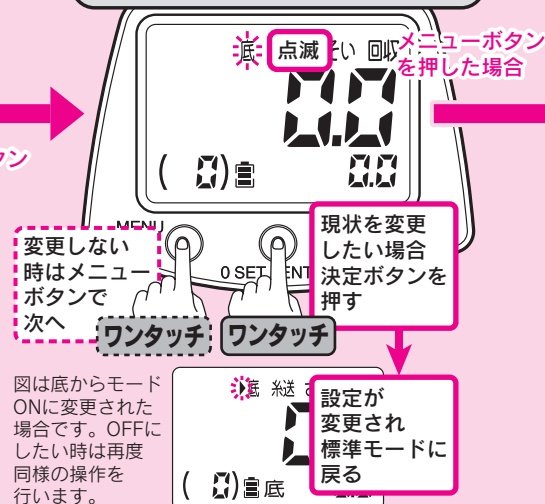
標準モード

実際に釣る場合使用します。
電源ON時はこの状態です。
（※初期画面）

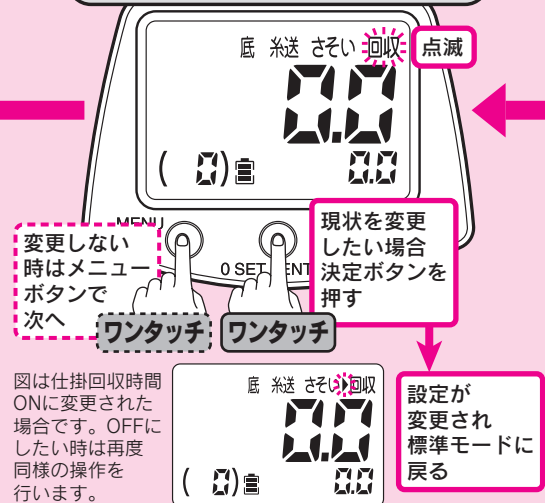


モータ停止の状態
で3秒以上押すと
機能設定画面へ

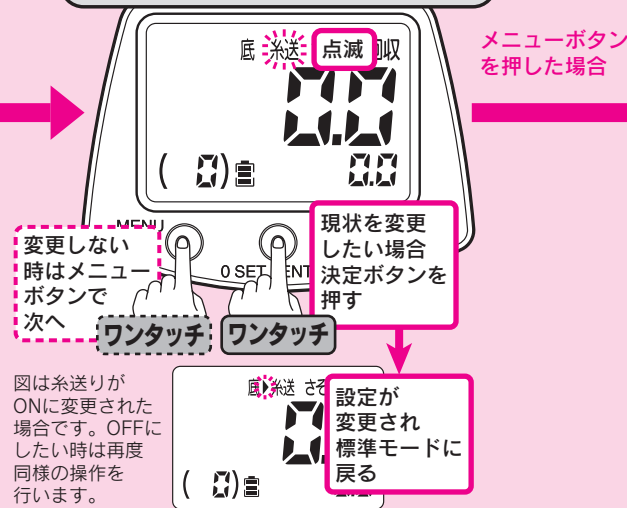
設定画面-1【底からモード】



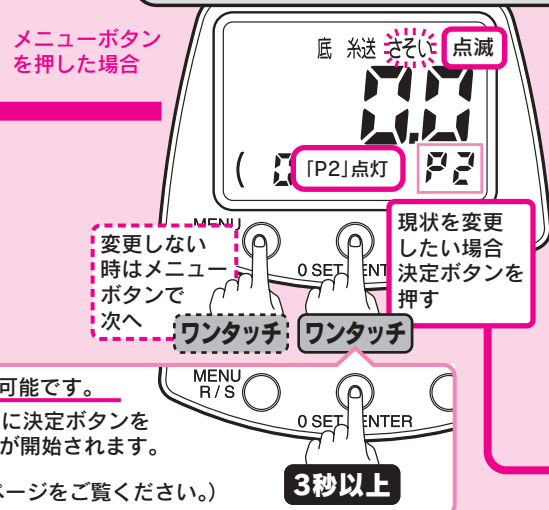
設定画面-5【仕掛回収時間】



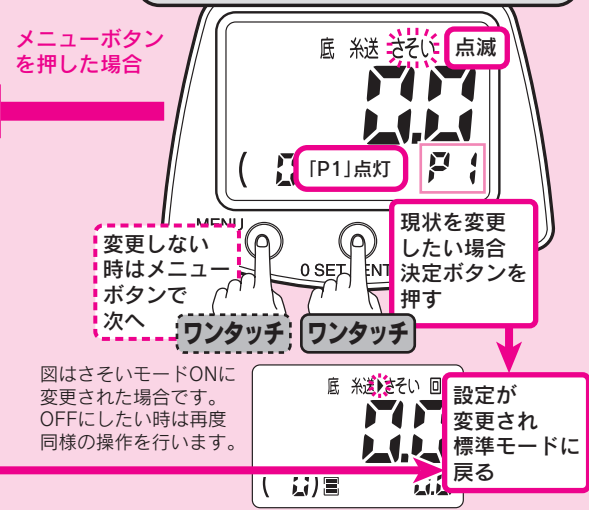
設定画面-2【自動糸送り機能】



設定画面-4【さそいモード②】



設定画面-3【さそいモード①】

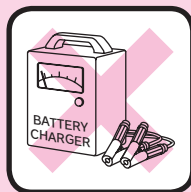
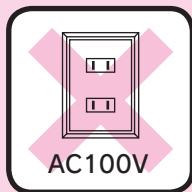
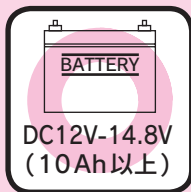


電源とケーブルについて

1 お取り扱い上の注意

電源について

電源は直流 (DC) 12Vです。公称電圧が12Vから14.8V (リチウムイオンバッテリーなど) までのものをご使用下さい。指定外の電源 (たとえば家庭用の交流100V、船装備の高電圧など) ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないで下さい。



- 船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流 (DC) 12Vから14.8Vであることをご確認ください。(船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限りです。) また、端子がサビていたり、電圧が安定していませんと、リールが正常に作動しない場合があります。
- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- AC電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。
- 他社メーカーのバッテリーには、ワニ口が正確に取り付けできない場合がございます。また、他社メーカーのバッテリーを使用されますと、バッテリーが破損する場合があります。
- 船電源を使用されますと他の電動リールを止めてしまう可能性があります。
- お勧めの電源は10Ah以上の自動車用バッテリーか電力丸10Aです。

本製品はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。
ご使用になる際は弊社、電力丸をご使用になるようお勧めいたします。

ケーブルについて

電源との接続は、必ずシマノ純正ケーブルを用いてください。

探見丸接続時は専用ケーブルをご使用ください。

ケーブルは消耗品です。使用頻度にもよりますが、2～3年で交換することをお勧めします。

ご注意：

純正以外のケーブルを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、ケーブルは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。

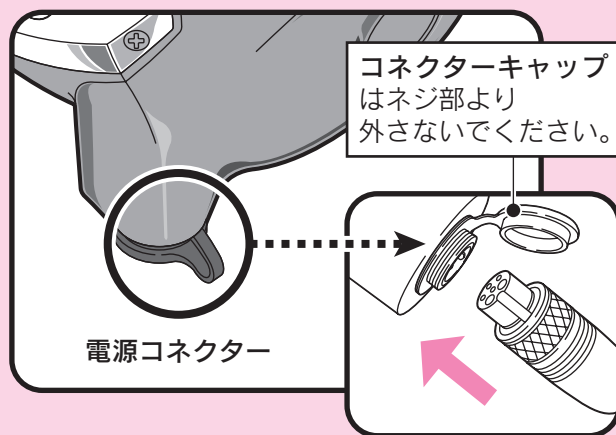
本製品に付属しているケーブルは Type-B です。

※ケーブルタイプの表示のない電動リールおよびケーブルは Type-B になります。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属のケーブルを接続してください。
赤クリップを (+) 側に、黒クリップを (-) 側につないでください。

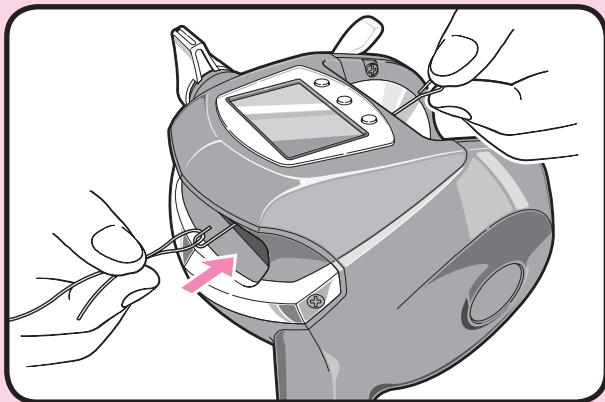
2 リールとケーブルを接続してください。
ケーブルのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。
※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。
※若干のガタが出るものがありますが、ご使用上問題はありません。



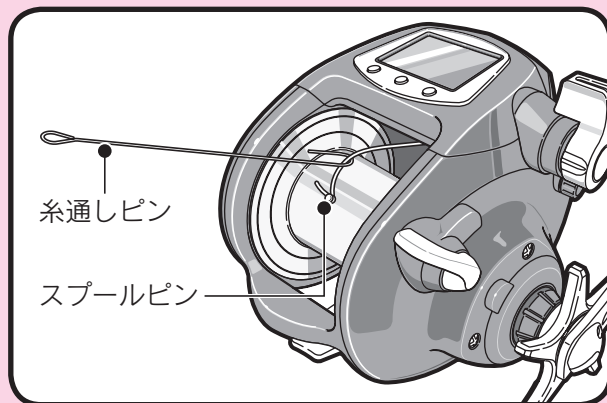
学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)

糸をセットします。

- 1 糸をレベルワインドに通します。
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



- 2 スプールピンに糸を結んでください。




学習方法の選択

まず次ページの操作で標準モードから学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。

それぞれの学習方法については次項からの説明をご覧ください。

- ※電源をつないでいないとこの操作は行えません。
- ※カウント値が6 m以下で操作してください。
6.1m 以上の時はいったん0セットしてください。

ご注意：
不足した電圧  で学習されると途中で液晶が消える場合があります。
この場合、学習は始めからやり直してください。

標準モード

実際に釣る場合使用します。
電源 ON 時はこの状態です。

(※初期画面)
底 糸送 させい 回収

ピッ

0セット+メモボタン両方同時
3秒以上押しで学習モードへ

3秒以上 3秒以上

メニューボタンを押した場合
標準モードに戻ります。

① 学習モード E1 NEW SLS III PE 学習

SHIMANO

ピッ

メニューボタンを
押した場合

点滅

0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[PE学習]開始

[PE学習]を
選択しない時は
メニューボタンを
押して次へ

ワンタッチ: ワンタッチ

② 学習モード E2 NEW SLS III ナイロン・フロロ学習

SHIMANO

ピッ

[ナイロン・フロロ
学習]を
選択しない時は
メニューボタンを
押して次へ

点滅

0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[ナイロン・フ
ロロ学習]開始

ワンタッチ: ワンタッチ

メニューボタンを
押した場合

⑤ 学習モード L2 従来のSLS II 下巻学習

SHIMANO

ピッ

メニューボタンを
押した場合

点滅

0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[下巻学習]開始

[下巻学習]を
選択しない時は
メニューボタン
を押して次へ

ワンタッチ: ワンタッチ

④ 学習モード L1 従来のSLS II PE 学習

SHIMANO

ピッ

メニューボタンを
押した場合

点滅

0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[PE学習]開始

[PE学習]を
選択しない時は
メニューボタン
を押して次へ

ワンタッチ: ワンタッチ

③ 学習モード E3 NEW SLS III 下巻学習

SHIMANO

ピッ

メニューボタンを
押した場合

点滅

0セットボタン
を押すと
点灯に変わり
[下巻学習]開始

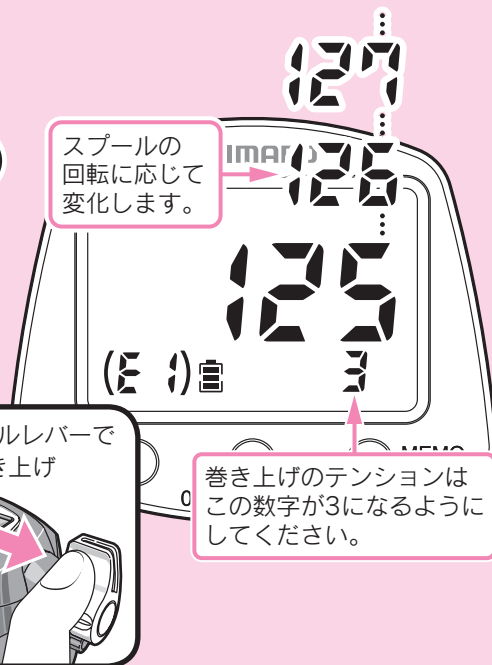
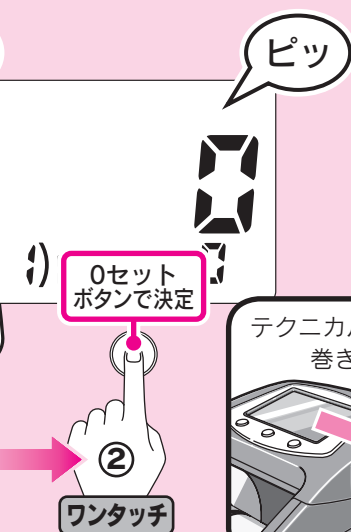
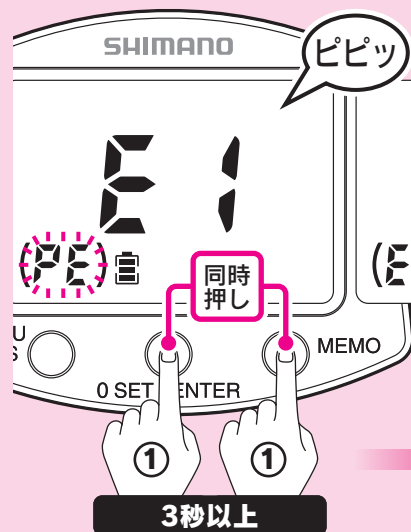
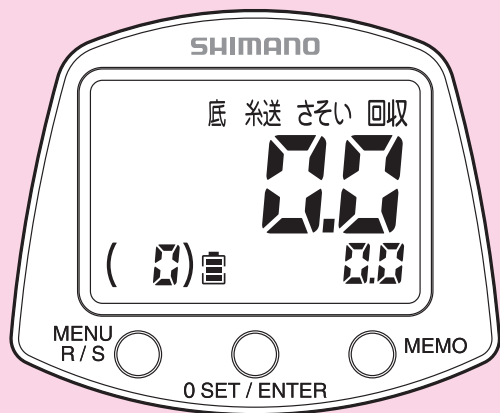
[下巻学習]を
選択しない時は
メニューボタン
を押して次へ

ワンタッチ: ワンタッチ

学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)



1 簡単・便利なNEW SLS III 糸巻学習 PEライン学習 (E1)

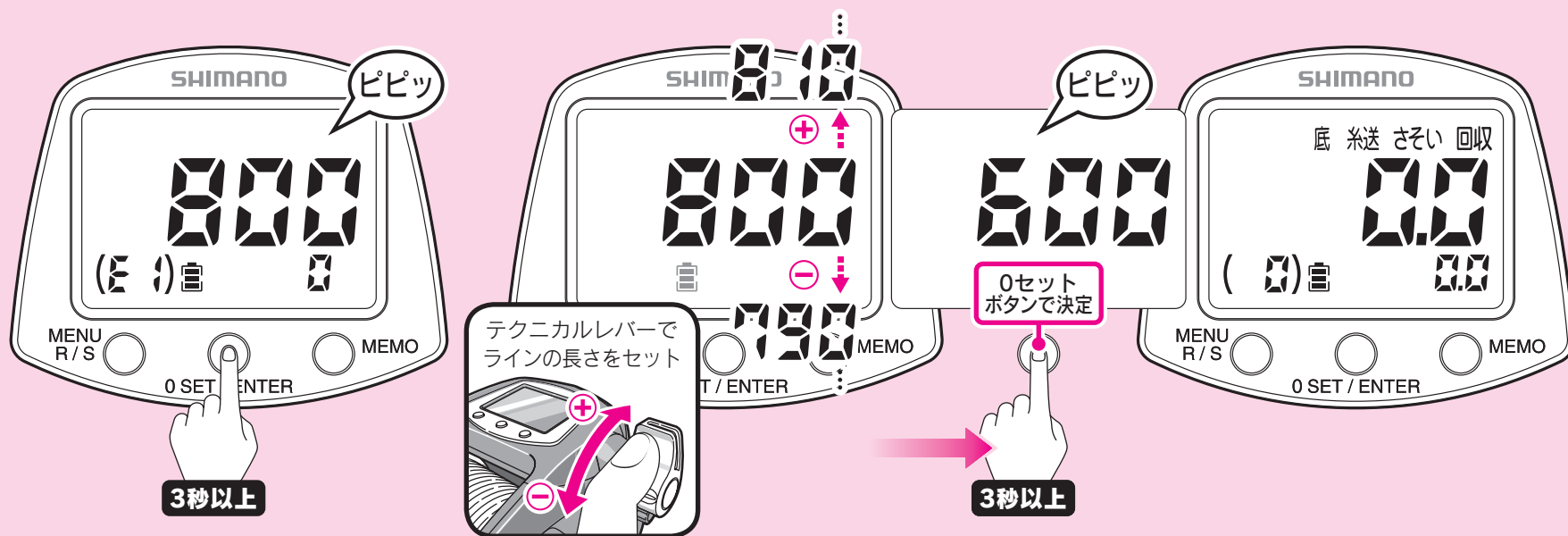


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (38～39ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 0セットボタン、メモボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。
「PE」が点滅します。
0セットボタンを押し、「E1」を決定します。
(PE) が (E1) の点灯に変わります。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18～19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スピールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** レバーで糸の長さをセットし0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は800mです。(図は800mから600mに変更した場合です。)

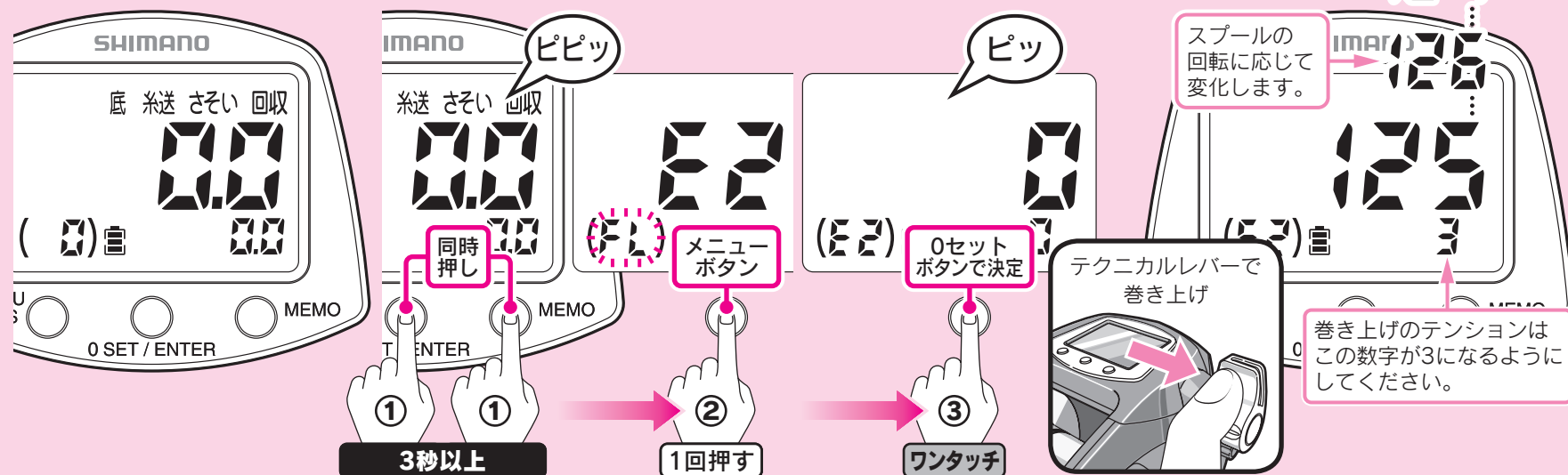
※各入力途中でメニューボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度やり直してください。

- 6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、58～59ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

2 簡単・便利なNEW SLS III 糸巻学習 ナイロン・フロロ学習 (E2)

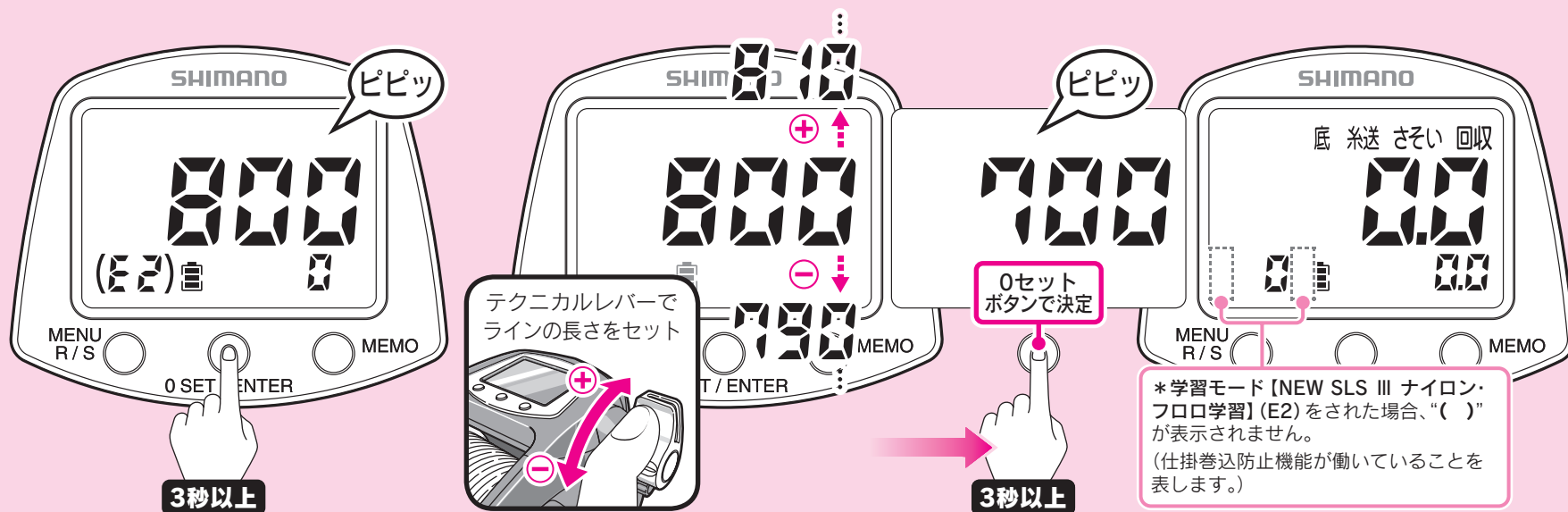


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (38～39ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 0セットボタン、メモボタンを両方同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。
次に、メニューボタンを1回押してください。
「FL」が点滅します。
0セットボタンを押し、「E2」を決定します。
(FL)が(E2)の点灯に変わります。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18～19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** レバーで糸の長さをセットし0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※初期設定は800mです。(図は800mから700mに変更した場合です。
※各入力途中でメニューボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度やり直してください。

- 6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、58～59ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

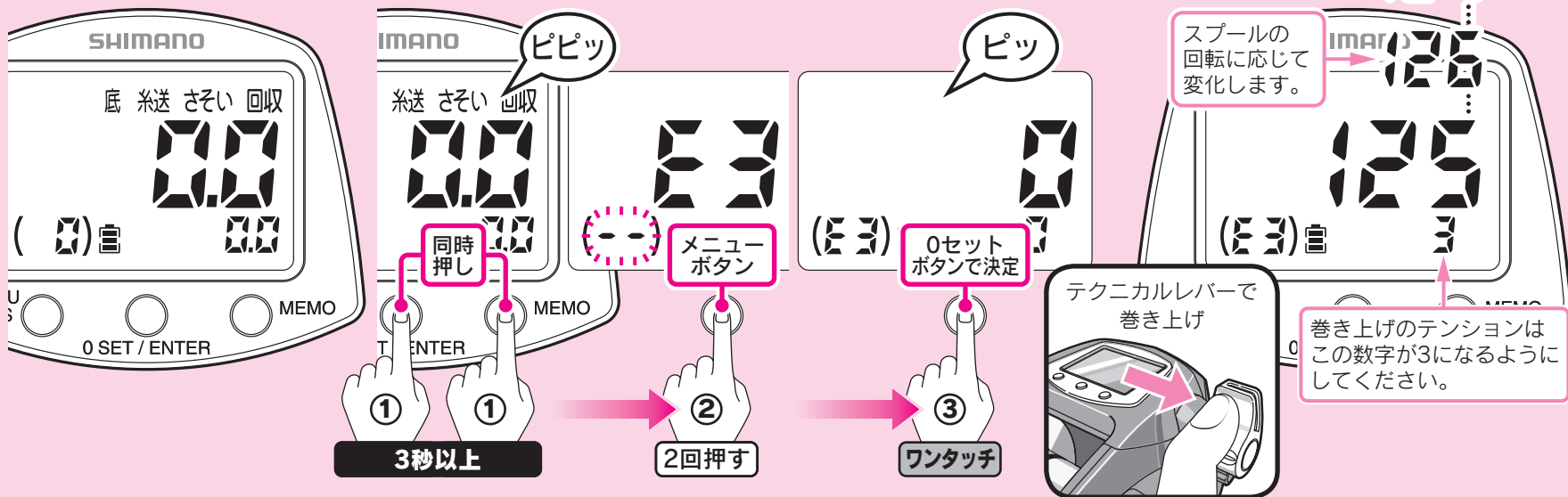
*学習モード【NEW SLS III ナイロン・フロロ学習】(E2)をされた場合は仕掛巻込防止機能が働きます。ナイロンやフロロのような伸びの大きい道糸を使用されますと、誤差が大きくなる恐れがあり、時には竿の穂先にシカケを巻き込んで、穂先の破損をまねく場合もあります。

本プログラムは、シカケを回収している際のリールの負荷が大きいと感じた時は船べり停止を6mに設定し、負荷が軽いと感じた時は出した糸の量の10% (100m出せば10m、6m以内になるようなら6m) で船べり停止を設定します。

※どちらもカウンター表示での数字となるため、実際のメートル数とは異なってきます。20速以上でこの機能はONとなりますので軽負荷で20速未満で巻きますと、穂先に巻き込む場合もあります。

3 簡単・便利なNEW SLS III 糸巻学習 下巻き学習 (E3)

スプール容量の半分の位置に下巻きラインがあります。
下巻きされる際の目安にして下さい。

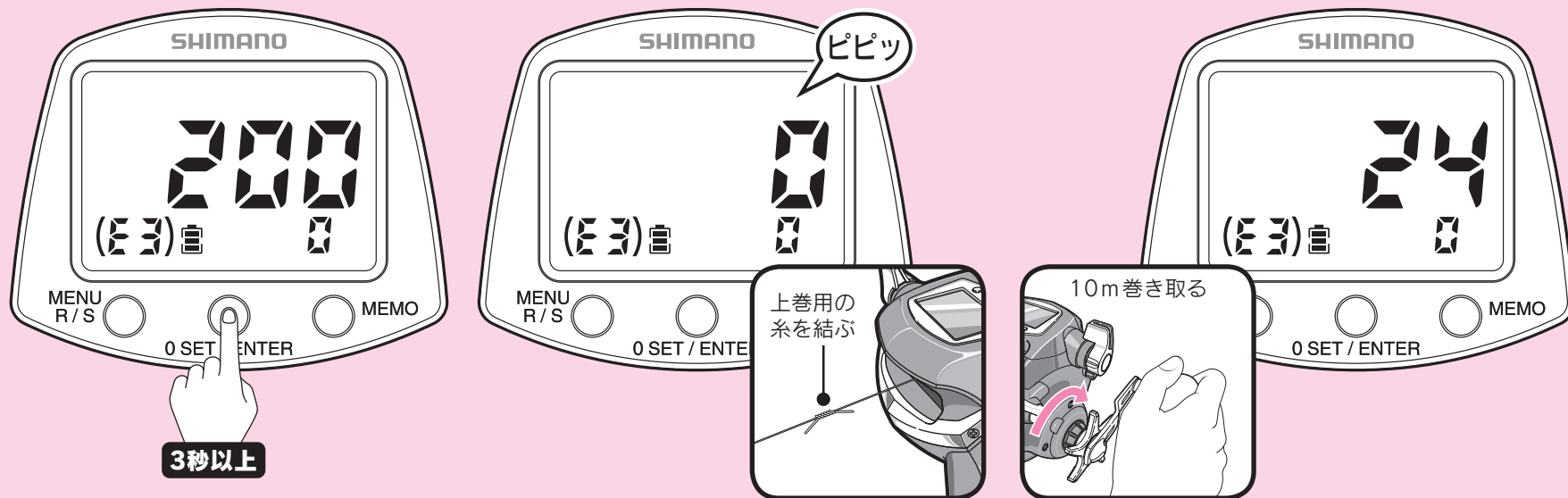


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (38～39ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 0セットボタン、メモボタンを両方向同時に3秒以上押すと学習モードに入ります。
次に、メニューボタンを2回押してください。
「- -」が点滅します。
0セットボタンを押し、「E3」を決定します。
(- -) が (E3) の点灯に変わります。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18～19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



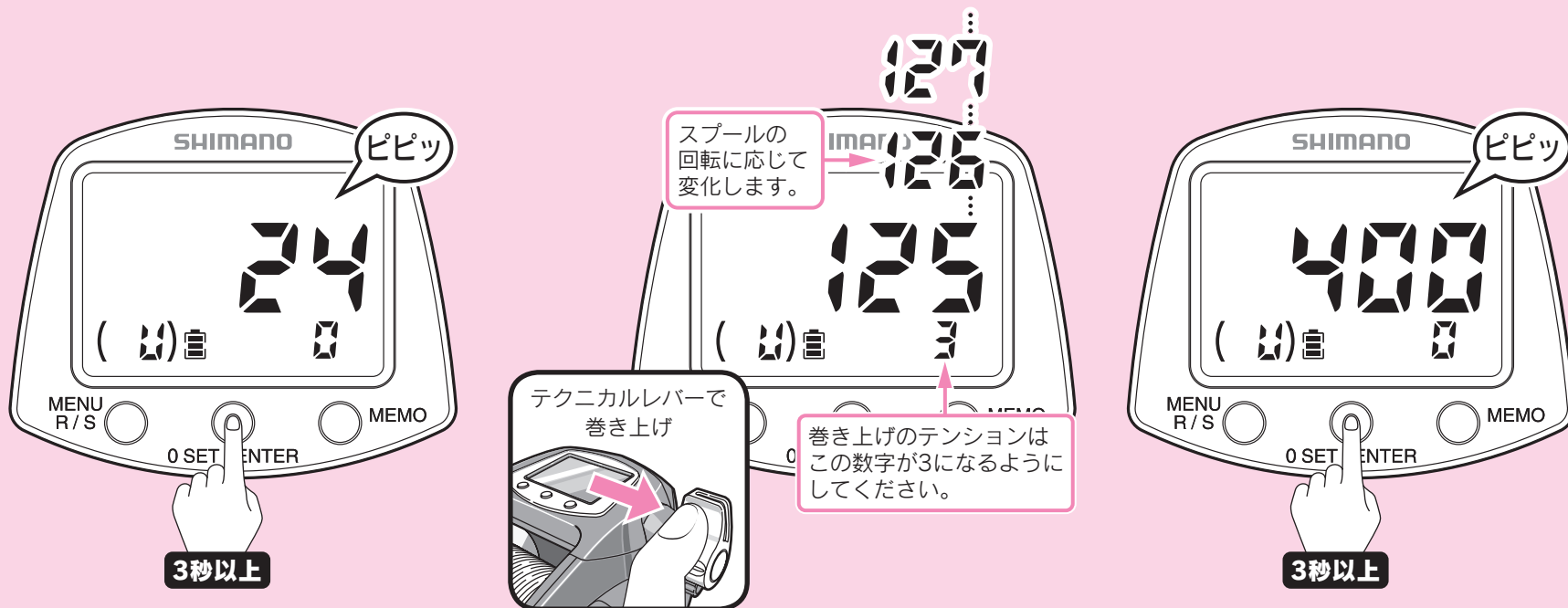
4 下巻き用の糸を巻き終わったら、0セットボタンを3秒以上押してください。

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終わった下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。
スプールの回転に応じて表示が変化します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



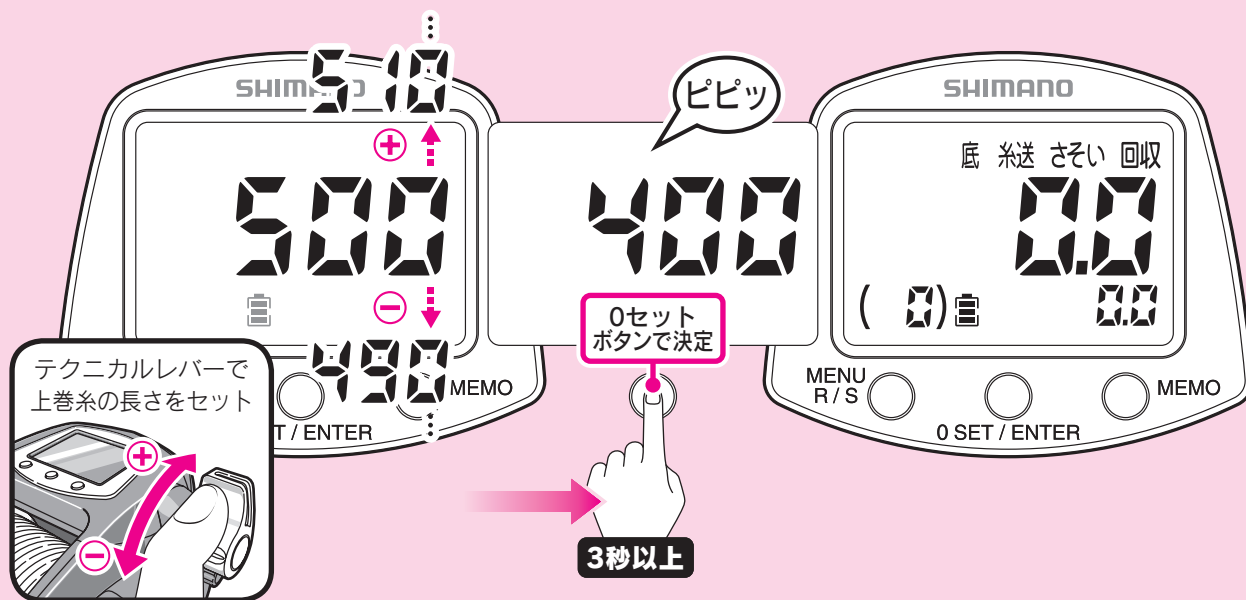
7 0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 テクニカルレバーで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

9 糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

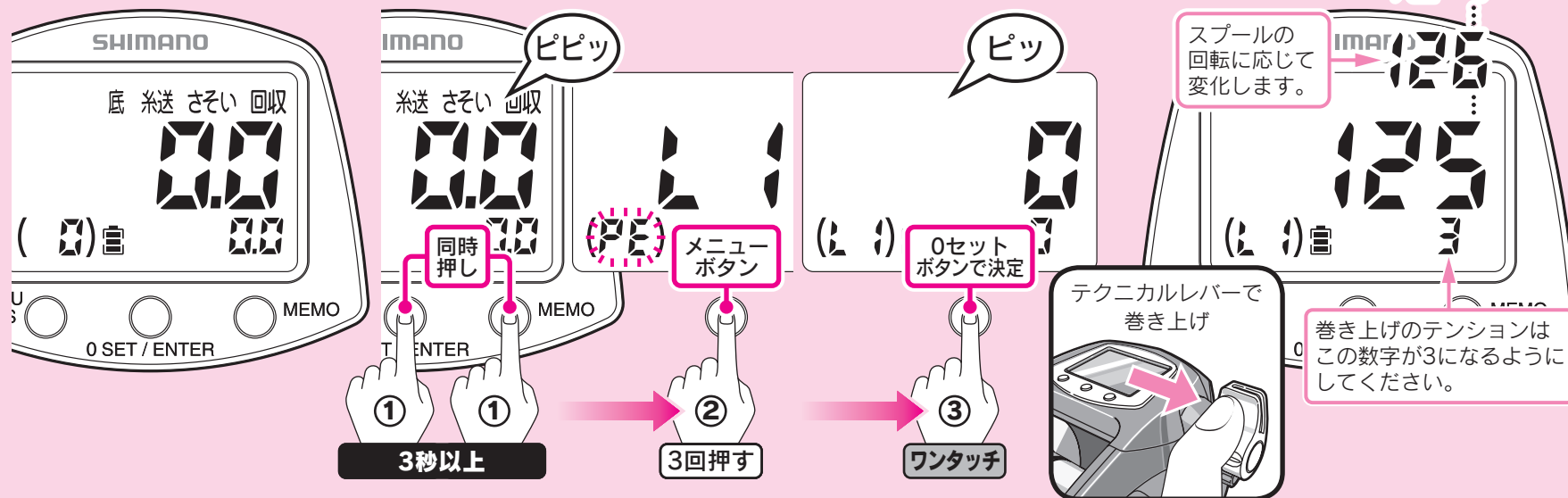
注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 10** レバーで上巻き糸の長さをセットし
0セットボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。
※初期設定は500mです。(図は500mから
400mに変更した場合です。
※各入力途中でメニューボタンを誤って押し
てしまった場合、途中のデータはキャンセル
となります。もう一度やり直してください。

- 11** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは
最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思
われた場合は、58～59ページの「糸巻学
習補正」を行ってください。より正確な棚取
りができます。

4 従来のSLS II 糸巻学習 PEライン学習 (L1)

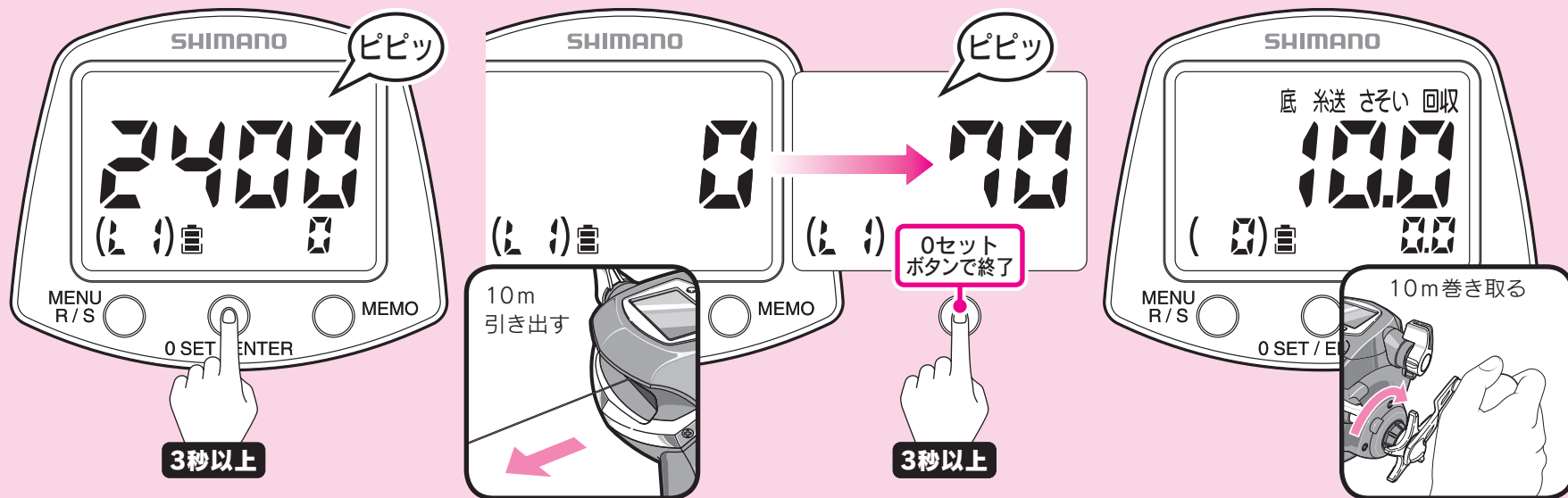


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (38～39ページ参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 0セットボタン、メモボタンを両方向同時に3秒以上押しと学習モードに入ります。
次に、メニューボタンを3回押してください。
「PE」が点滅します。
0セットボタンを押し、「L1」を決定します。
(PE) が (L1) の点灯に変わります。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは18～19ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

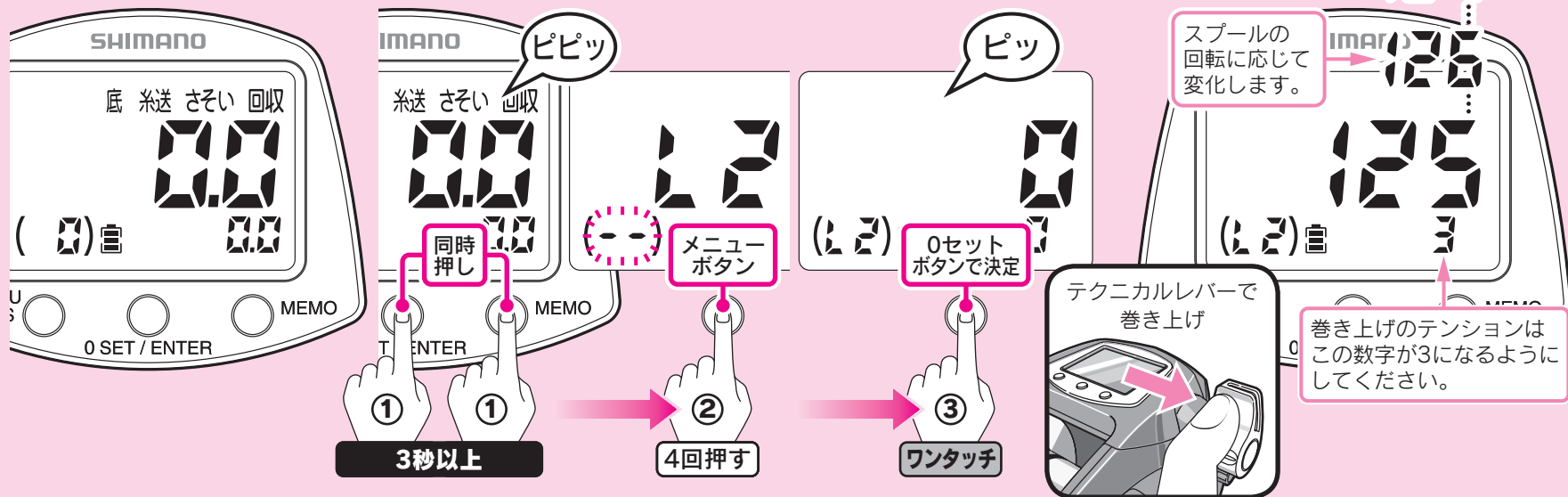
- 5** 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。) 学習を終了するため、0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

- 6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。) ※誤差とは、学習後1投目の誤差です。 ※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、58～59ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

- 7** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

5 従来のSLS II 糸巻学習 下巻き学習 (L2)

スプール容量の半分の位置に下巻きラインがあります。
下巻きされる際の目安にして下さい。

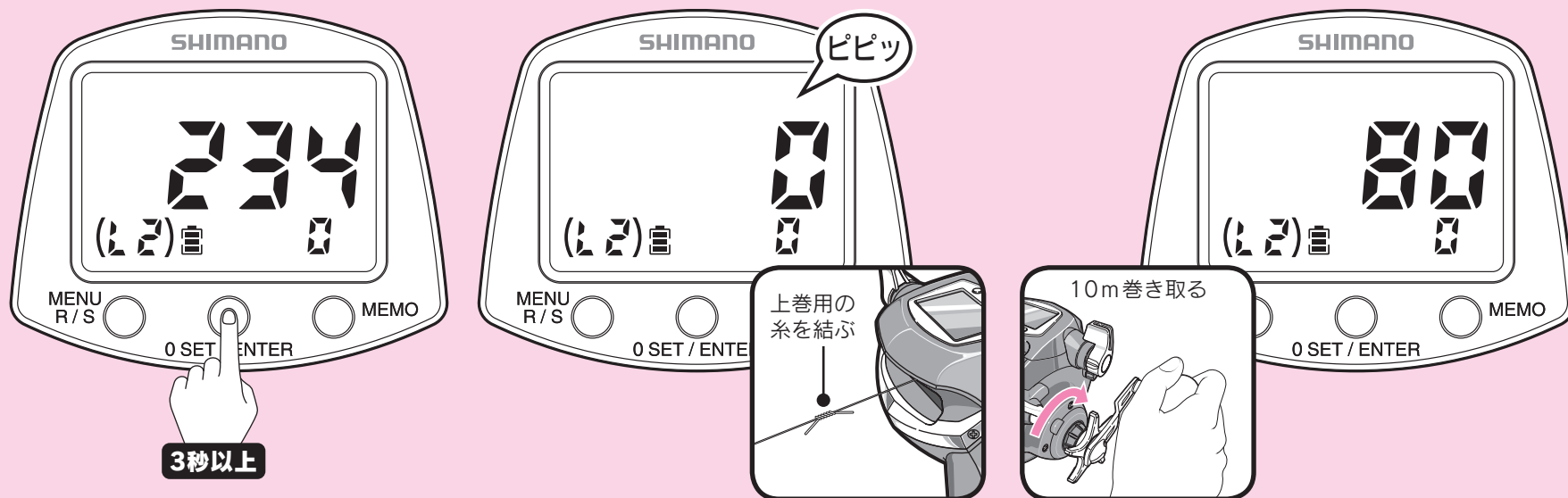


1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット (38～39ページ
参照) しておきます。
クラッチレバーをONにしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 0セットボタン、メモボタンを両方同時に
3秒以上押しと学習モードに入ります。
次に、メニューボタンを4回押してください。
「- -」が点滅します。
0セットボタンを押し、「L2」を決定します。
(- -) が (L2) の点灯に変わります。
(学習モード内での学習方法の選択について、
詳しくは18～19ページ「学習方法の選択」
をご参照ください。)

3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スプールの回転数に比例した数字が表示され
ます。巻き上げのテンションは3になるよ
うにしてください。この数字はリールが巻き上
げている力 (糸のテンション) を数字で表示し
ます。数字=kgではありません。
また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度
はテクニカルレバーで調節できます。
巻き上げを止めるときは、テクニカルレバ
ーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



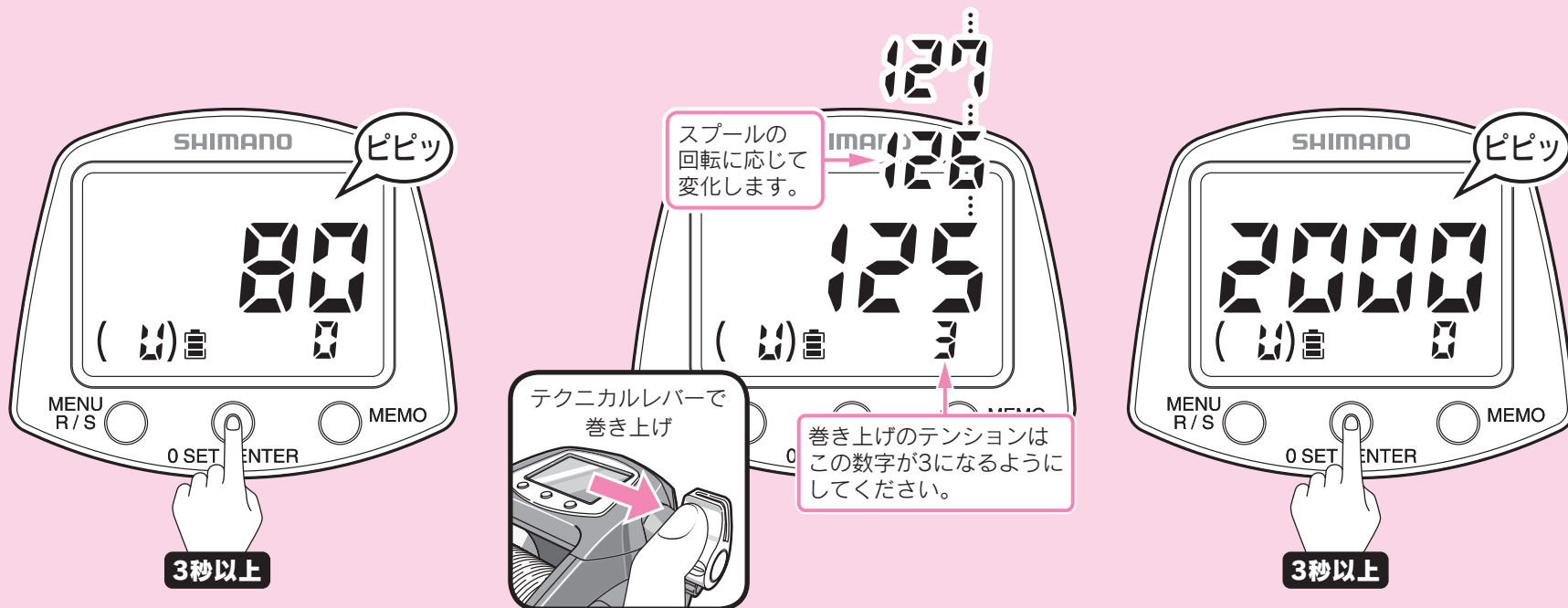
4 下巻き用の糸を巻き終わったら、0セットボタンを3秒以上押してください。

5 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終わった下巻き糸に、上巻き用の糸を結びます。

6 上巻き糸を正確に10m分巻き取ります。
スピールの回転に応じて数値が変化します。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



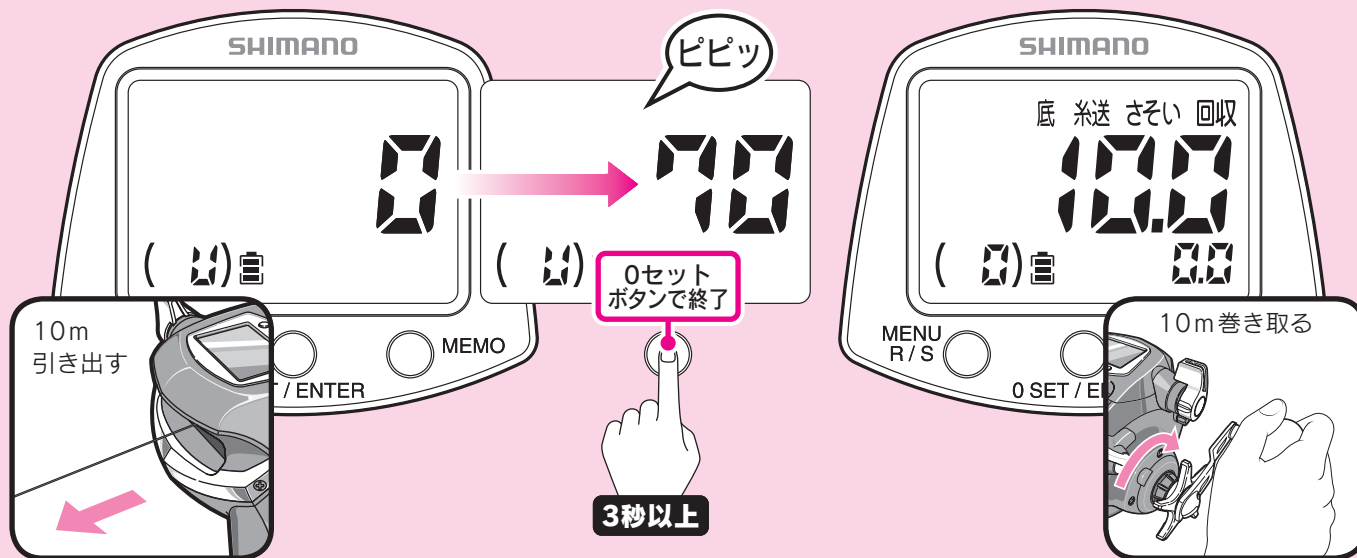
7 0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

8 テクニカルレバーで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは3になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力（糸のテンション）を数字で表示します。数字=kgではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

9 糸を完全に巻き終えたら、0セットボタンを3秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 10** 糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の变化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)
学習を終了するため、0セットボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。

- 11** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
※その後釣りをされていて誤差が大きいと思われる場合は、58～59ページの「糸巻学習補正」を行ってください。より正確な棚取りができます。

- 12** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

糸巻学習後の手順 (早く、有効に使いこなすために…)



かんたん 手順

これさえ知って
いればとにかく
使えます。



べんり 手順

簡単でとっても
便利です。

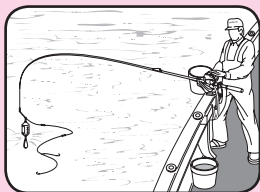


もっとべんり 手順

知れば知るほど
釣りの世界が
広がります。



0セット

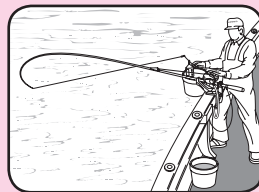


ボタンひとつでシカケが
水面にあるとき0mに
なるよう設定。
狙った水深に正確にシ
カケを投入できます。

詳しくはP38～39へ!!



船べり 自動停止

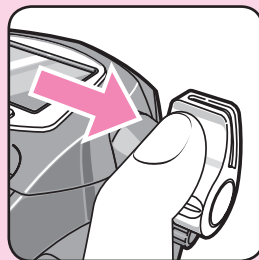


竿を立てるとシカケが
手元にピッタリともどる、
船べり自動停止機能は
手返しに差がつきます。

詳しくはP42～43へ!!



テクニカル レバー

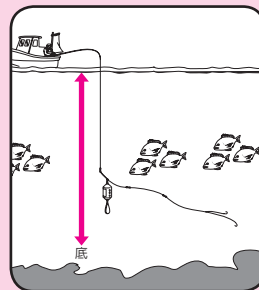


エサの付けかえをする
時、あるいはアタリがあ
ればテクニカルレバー
でらくらく巻き上げ。

詳しくはP12へ!!



棚メモ

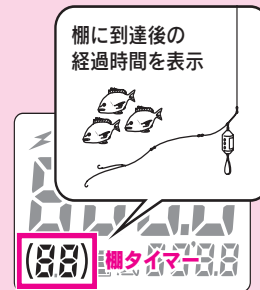


棚または底の水深をメ
モリーしてメモ欄に表
示しておけます。底か
らモード時はメモ位置
を0とした水深をメモ
欄に表示します。

詳しくはP44～45へ!!



棚タイマー

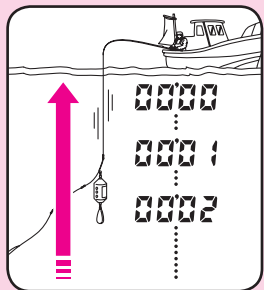


仕掛けが目標の棚に到
達してからの経過時間
を表示します。

詳しくはP13へ!!



仕掛回収時間



電動巻き上げ時に、シカケが船べりに回収されるまでにかかる時間を表示します。

詳しくはP57へ!!



糸落スピード表示



糸落のスピードの目安を表示中は“()”が点滅します。糸落スピードを安定させることにより、釣果UPにつながります。

詳しくはP13へ!!



電動巻上負荷表示

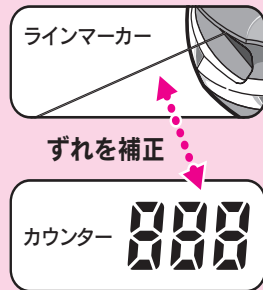


モーター巻き上げ時、ラインテンションの目安を表示します。ドラッグ調整や、巻き上げスピードの調整などでハリス切れを防ぐことができ、また、魚の匹数や大きさの目安にもなります。
※仕掛回収時間がON時、電動巻上負荷表示は無効になります

詳しくはP13へ!!



糸巻学習補正

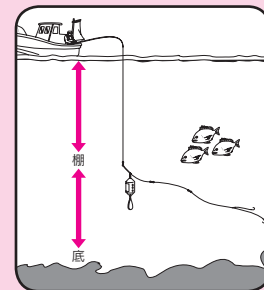


実際のラインマーカーとカウンターのm数を補正することで、より正確な棚取りを行えます。

詳しくはP58～59へ!!



上から・底からモード切替え



釣場、釣り方、対象魚など場合にに応じて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えることができます。上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置を0とした水深が確認できます。

詳しくはP46～48へ!!

次ページにつづく



楽・速モード

楽楽・速度一定 モード切替え

スプール回転一定の
速度一定モード



切り替え

ラインテンション一定の
楽楽モード

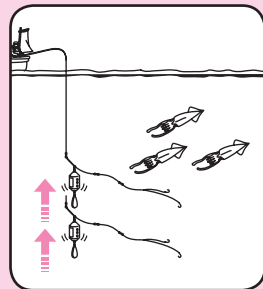
一定のテンションを保って引っ張り合いやシカケのゆるみを防ぐ「楽楽モード」と、スプール回転一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。

詳しくはP49～50へ!!



さそい

さそい



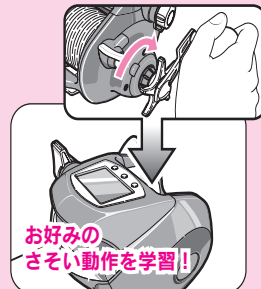
名人の「3段シャクリ」をリールが再現してくれます。

詳しくはP51～52へ!!



テクニック

テクニック マスター



お好みの
さそい動作を学習!!

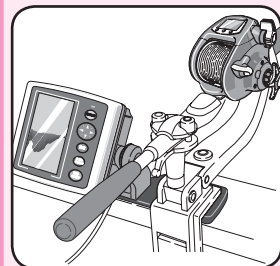
釣人の学習させた「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスター(TM)。モーターのON/OFFによる入力、手巻き操作による入力とも、マイコンによるファジー制御で釣人の感性に忠実な「さそい動作」をリールがそのまま再現します。

詳しくはP53～56へ!!



テクニック

探見丸システム



船ヘリで魚探が見える探見丸システムと組み合わせることで双方向に通信が可能となり、使い勝手が広がります。「さそい動作」をリールが再現するシマノテクニックマスターが探見丸でさらに便利に!

詳しくはP60～61へ!!



応用

シカケを速く落すテクニック。

特にイカを狙うときに有効なテクニックです。

- 一般的にはメカニカルブレーキノブを締め、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。
- しかし、より速くシカケを落とすためにはメカニカルブレーキノブを締めずに、自分の指でスプールをサミングしてください。

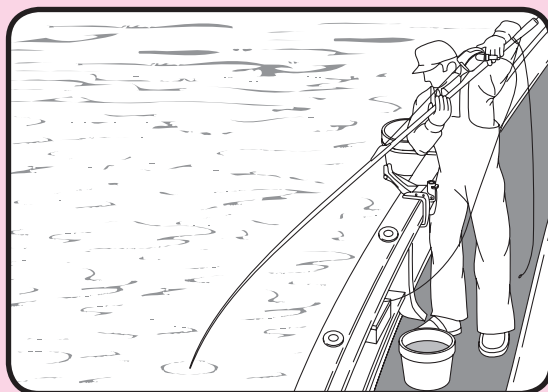
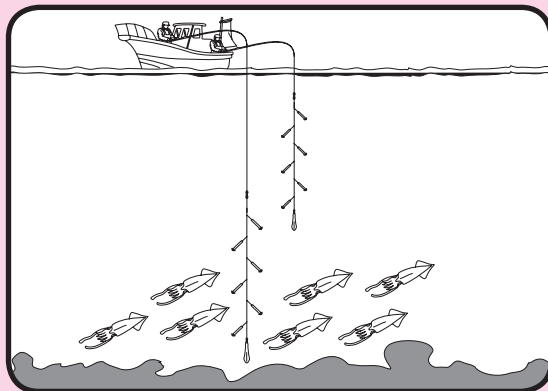
この他にも次のようなテクニックがあります。



- 本製品には自動糸送りの機能が付いています。シカケを投入して水深が船べり停止位置+5m以上になったら、自動的にモーターがONになり、スプールの抵抗を極力少なくします。クラッチをリターンさせると、モーターの回転は自動的にストップします。

※自動糸送りが作動中はモーターが回転しますのでそのままクラッチをONにすると若干糸を巻き込みますが異常ではありません。

- 竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。(右図)

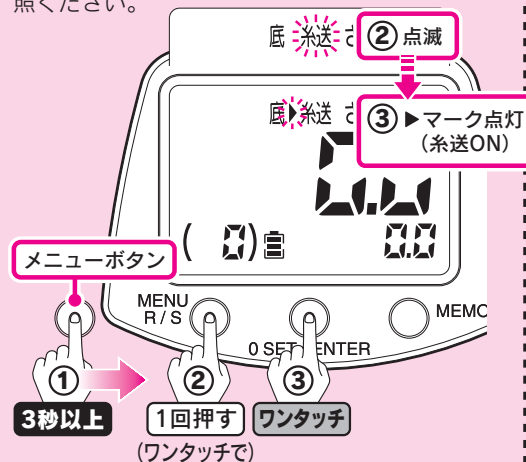


自動糸送り機能をONする方法

電源を入れたときは自動糸送り機能がOFFになっています。

1. モーターが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを3秒以上押してメニューモードに入り、
2. 続けてメニューボタンを(3秒未満押しで)1回押してください。
「糸送」が点滅になります。
3. 決定ボタンを押すと▶マークが点灯し、自動糸送りがONされます。
ガイドの抵抗、バックラッシュなどでこれをOFFしたいときも、同様の操作を行ってください。

メニューボタンの操作について、詳しくは14～15ページ「メニューボタンの操作」をご参照ください。



0 (ゼロ) セットの設定 (釣りを始める前に必ず行なってください。)



正確な棚取りを実現するために。

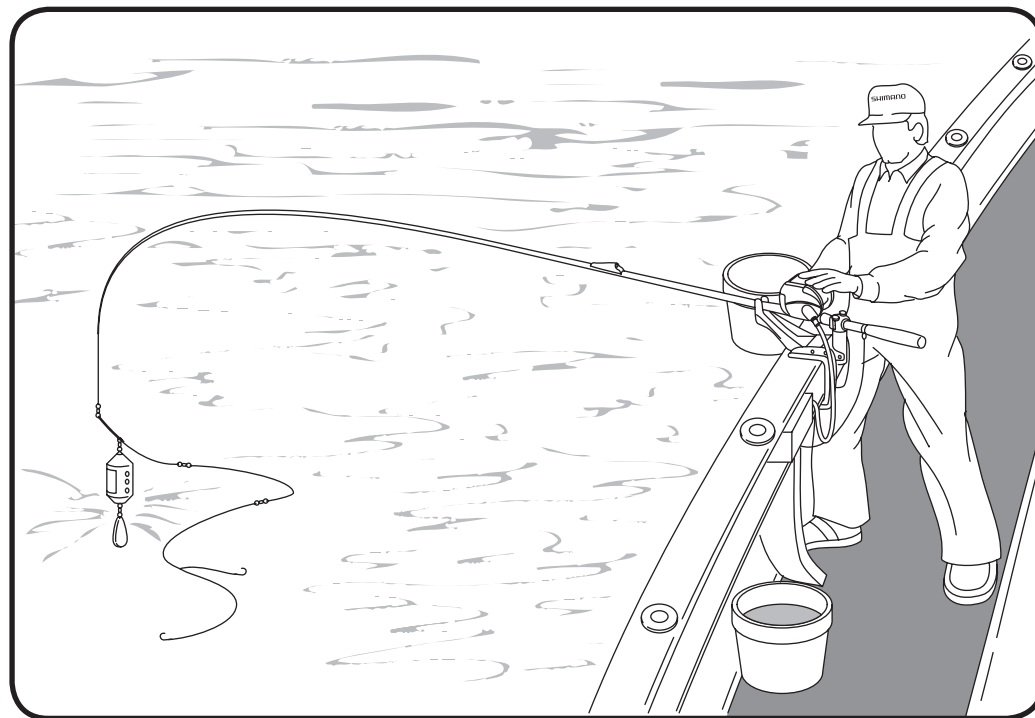
釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。

「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。

「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。

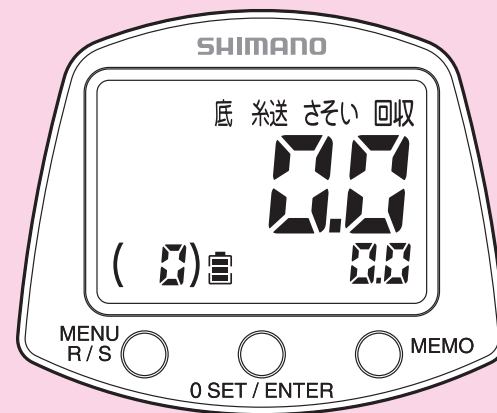
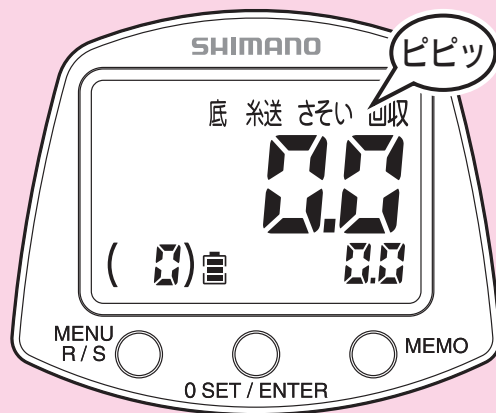
※糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

※水深表示が10.1m以上で0セットをすると、高切れ補正となります。



シカケが水面にある時を0mとして設定します。

0 セットを試してみましょう。



1 シカケを水面に合わせ、0セットボタンを3秒以上押し下さい。

2 「ピピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。

3 これで0セットは完了です。

※探見丸・電動リールの「さそい機能」がONの場合、0セットできない場合があります。必ず「さそい」をOFFにしてから行ってください。

! **ご注意!**

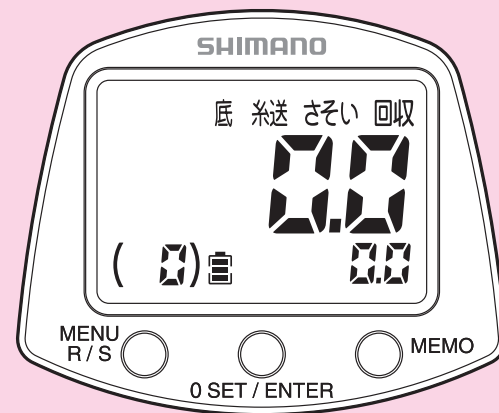
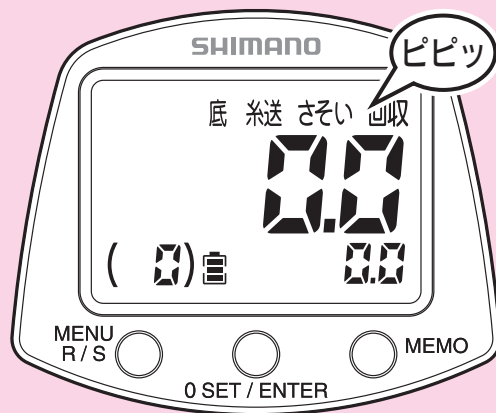
糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

高切れの補正

高切れセット

高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。

※水深表示が 10.1m 以上で 0 セットをすると、高切れ補正となります。



1 シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、0 セットボタンを 3 秒以上押します。

2 上図のように表示が変わります。

3 これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

⚠️ ご注意！

高切れの補正を行う場合、「さそい機能」がOFFになっていることを必ず確認してください。ONのままですとさそい動作がスタートされ、糸を巻き込んだり、思わぬケガにつながります。

⚠️ ご注意！

糸を巻き込み過ぎた状態での高切れ補正は、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。



シールドタイプ S A-RB でさらなるスプールフリーを実現！

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプ S A-RBを適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。

それによってイカ釣りでのシカケ落下性能も飛躍的にUP、また電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。また、レベルワインド部分での糸ガラムを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。

A-RB処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による“塩噛み”をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

シールドタイプ S A-RB 2個内蔵

S A-RB

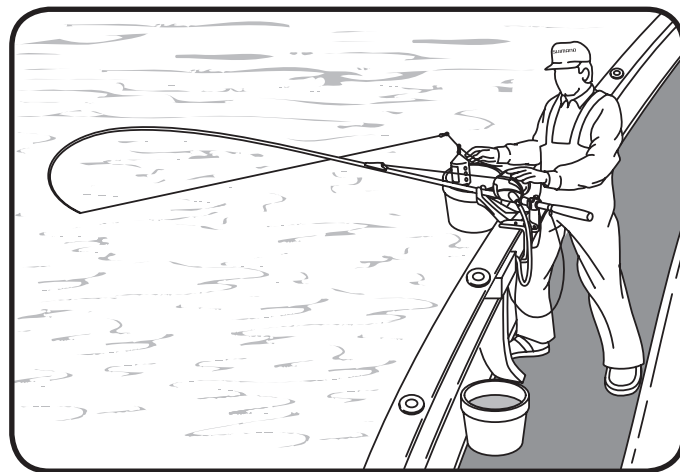
船べり自動停止



電動巻き上げ停止後、竿を立てればシカケが手元にもどります。

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

- ※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。(この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。)
- ※本製品は仕掛巻込防止機能を搭載しているため、負荷の変動が大きいとリールが判断した場合は、安全の為、船べり停止をかなり手前で止めることがあります。故障ではありませんので安心してご使用ください。



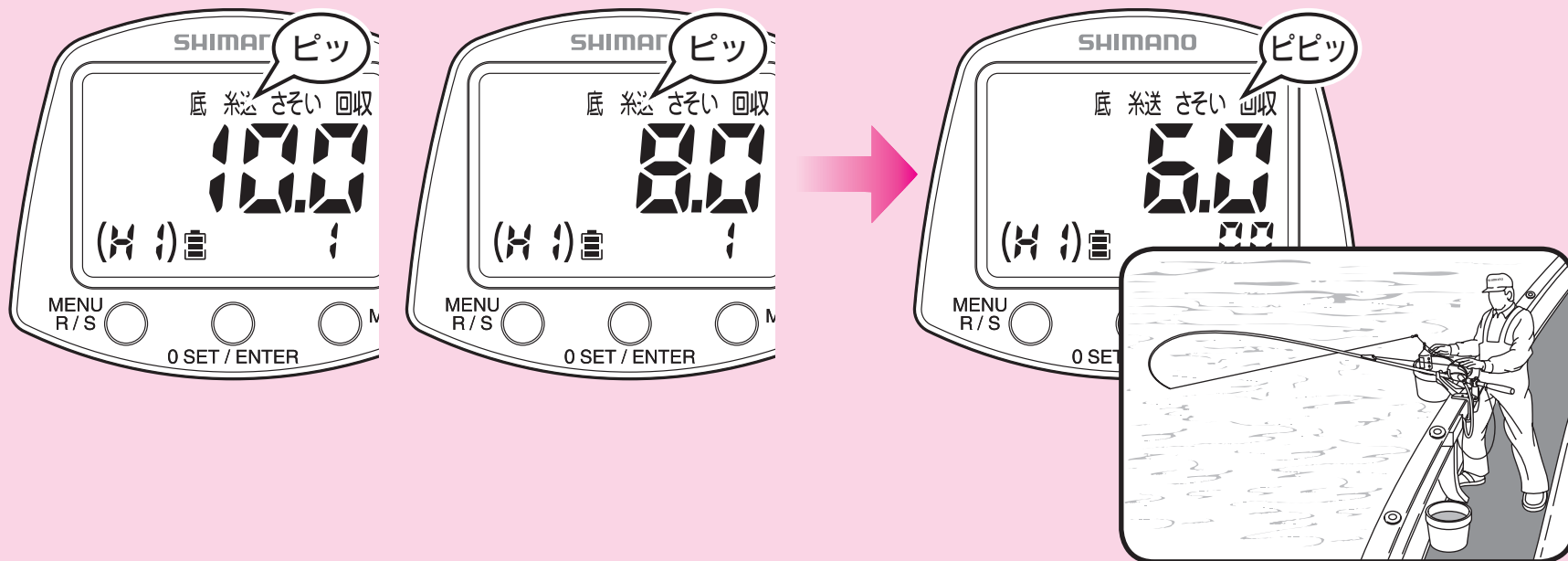
●ワンポイントアドバイス

短い竿、例えば1mの竿で足場の高い船のミヨシで釣りをされる場合、通常のように海面で0セットをされますと、船べり停止機能が働く1～6mの範囲に入らなくなります。

そんな時はシカケを穂先位置まで巻き上げ、その位置で0セットをされますと手元にシカケが来るようになります。その際、海面で0セットされていない為、竿先から海面までの距離が実際にはズれてしまいます。

アラーム（船ベリ）

船ベリ自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。



- 1 セットされている船ベリ自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。
図はテクニカルレバーのHIで巻き上げた場合の表示です。

- 2 船ベリ自動停止位置（この場合は6.0m）で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。
船ベリ停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

棚または底の水深をメモリーする方法



水深をメモリーするには…



シカケをメモリーしたい水深に合わせ、メモボタンを押します。

メモリーした水深がメモ欄に表示されます。(□部分)

上図の場合ですと 50.0m の水深がメモリーされます。(上からモード選択時)

※このセットは何回でも入れ換えが可能です。

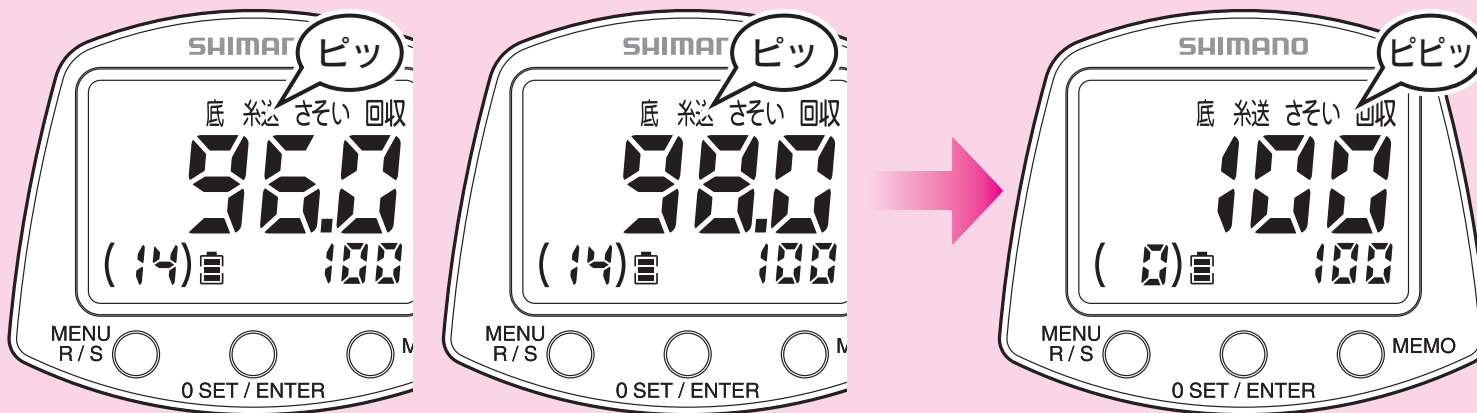
次ページにつづく



棚アラーム

メモリーした水深の4m手前から「棚アラーム」でお知らせします。

※上からモード選択時のみ



1 シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。

2 メモ水深（この場合は100m）で「ピピッ」のアラームが鳴ります。1回の上げ下ろしにつきアラームは1回のみです。

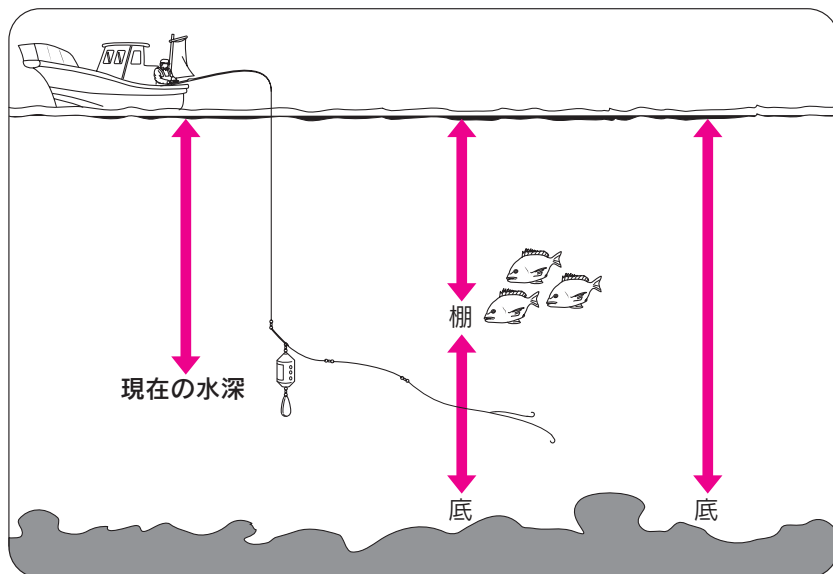
2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード



棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深（すなわち棚）にシカケを降ろすかということです。最近では高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。通常、船長がこの棚を教えてください。この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、

海底すなわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。本製品は底からの水深を確認したい場合があります。その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。

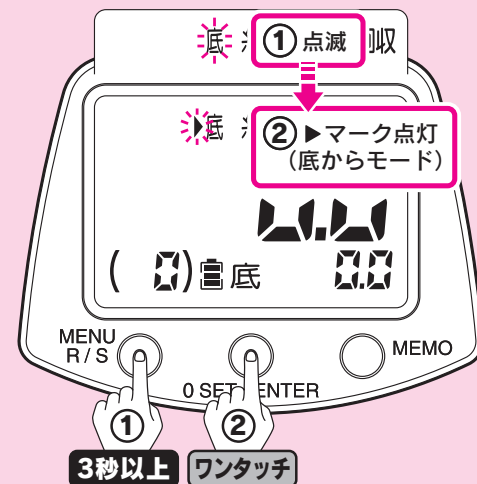


モードを切り替えるには…

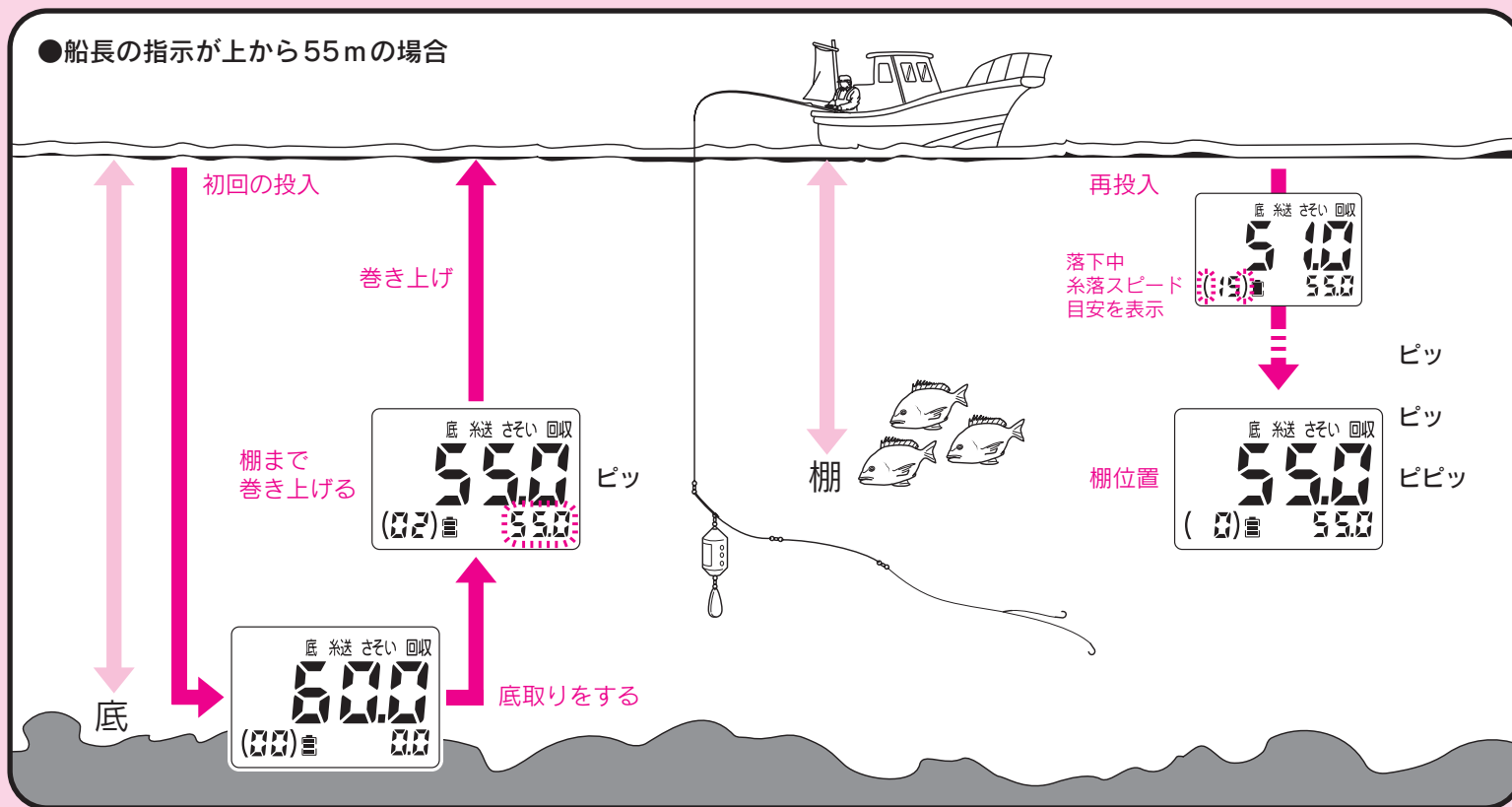
電源を入れたときは上からモードになっています。モードを変更したいときは下記の操作を行ってください。

1. モーターが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを3秒以上押してメニューモードに入ります。「底」が点滅になります。
2. 決定ボタンを押すと▶マークが点灯し、底からモードになります。上からモードに戻りたいときは、同様の操作を行ってください。

メニューボタンの操作について、詳しくは14～15ページ「メニューボタンの操作」をご参照ください。

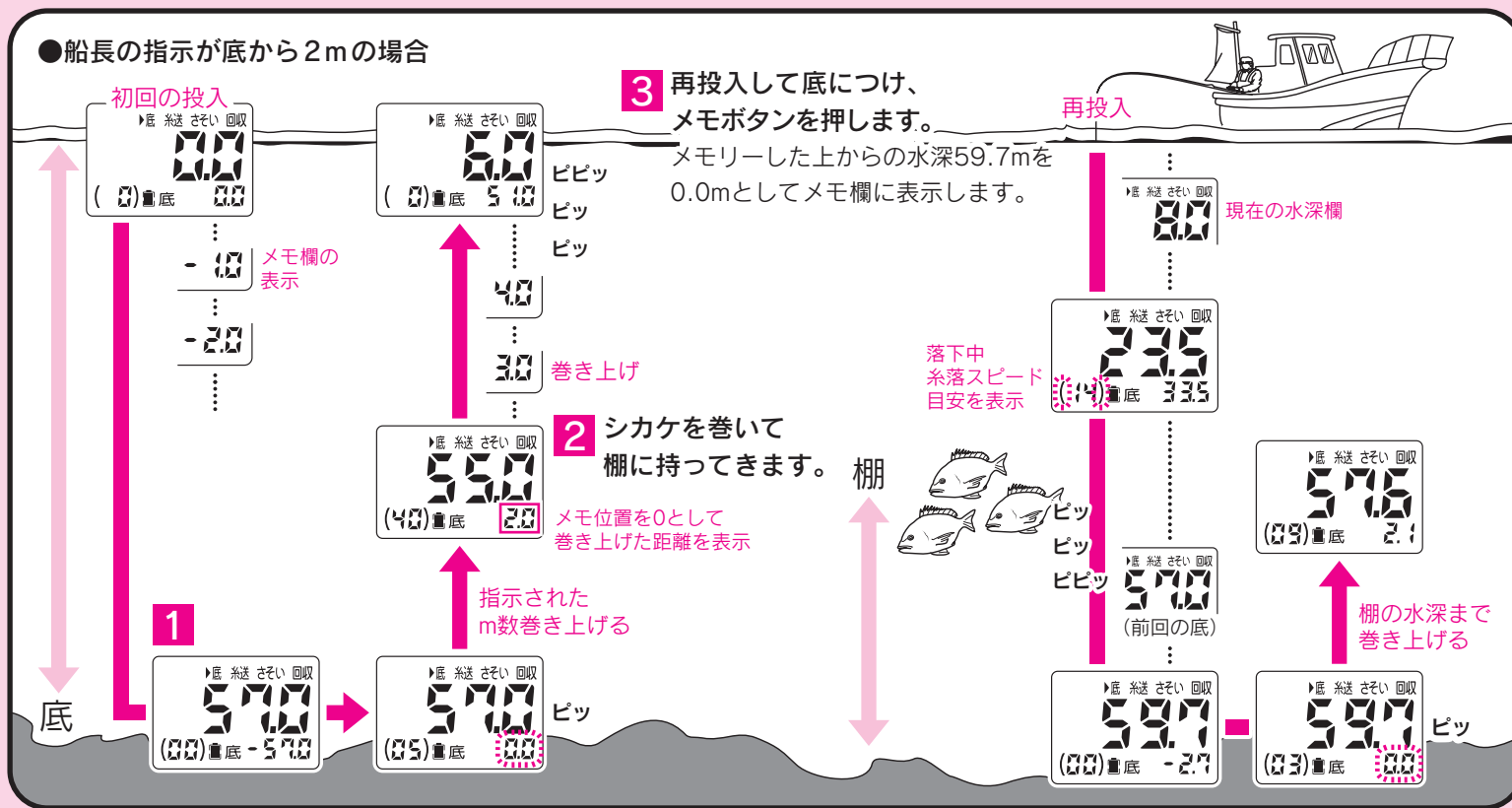


上からモードの実釣編



- 1 シカケをいったん底につけます。
- 2 シカケを巻いて棚に持ってきます。メモボタンを押して棚をメモリーします。以上は底取りをして底の水深を知りたい場合ですが、直接指示の水深にシカケを投入しメモボタンで棚をメモリーすることも可能です。
- 3 再度投入した際「棚アラーム」によって、シカケがメモリーした水深にきたことを知らせてくれます。

底からモードの実釣編



1 シカケをいったん底につけ、メモボタンを押します。
 メモリーした上からの水深を 0.0m としてメモ欄に表示します。
 リールを巻き上げるとプラスにカウントし、底からの水深が確認できます。

解説！
 船長の指示が「底から何 m」といった場合、釣り人はシカケをいったん底まで降ろして指示された m 数だけシカケを上げます。(通常この時にコマセを振ります。)

2通りの巻き上げ方・楽楽モードと速度一定モード



1 楽楽モードと速度一定モードの切り替え方法

- R/Sボタン (楽/速ボタン) を押すごとに、速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。(右図)巻き上げ中の操作も可能です。

現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。

R (楽楽モード)：緑のバックライト

S (速度一定モード)：オレンジのバックライト (「速」点灯)

2 速度一定モードとは？

巻き上げてくる対象物が大きくなろうが小さくなろうが、つまりリールにかかる負荷が大きくても小さくても、モーターが調整して設定された速度*を一定に保って巻き上げます。(*速度→電動リールのスプール回転速度)

ご注意：設定値 1～4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。

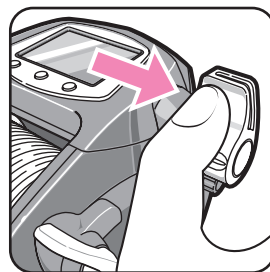


◎現在のモード

R (楽楽モード)：緑のバックライト

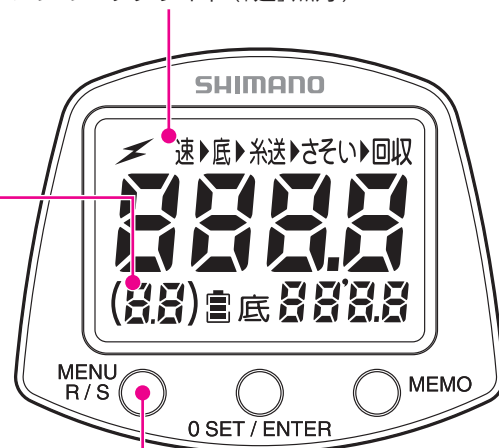
S (速度一定モード)：オレンジのバックライト (「速」点灯)

テクニカルレバー位置を表示します。



■テクニカルレバー

速度一定モードまたは楽楽モードの設定を行います。



■R/Sボタン (楽/速ボタン)

押すごとに速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。巻き上げ中の操作も可能です。

次ページにつづく

3 楽楽モードとは？

「楽楽モード」は、お客さまが設定したテンションを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転速度を自動的に変化させ、つねに一定のテンションを保って巻き上げます。

つまり

● モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	● 波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
● 魚が突っ込んだり、船が急に持ち上がったときの急なテンションの上昇に応じて、モータースピードが遅くなって調節してくれる。	● ポンピングで竿をおろしたときなど、急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなって、シカケにたるみができない。
これなら楽だし、手巻き感覚で安心です！	

さらにこんなメリットも…

- 活きエサを除くすべての釣りをカバー。
テンションの軽いシカケ回収の際には、ほぼ最高速で巻き上げてくるため、電動の速度調整がいらず非常に簡単便利。
- テンション設定はレバー操作で瞬時に調整可能です。
- 電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。

楽楽モードの設定方法



- テクニカルレバーで設定します。（前ページ図参照）
巻き上げ設定は全部で 31 段階設定できるようになっています。テクニカルレバーの設定値はカウンターに表示されます。
- 設定値 1 ～ 4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。

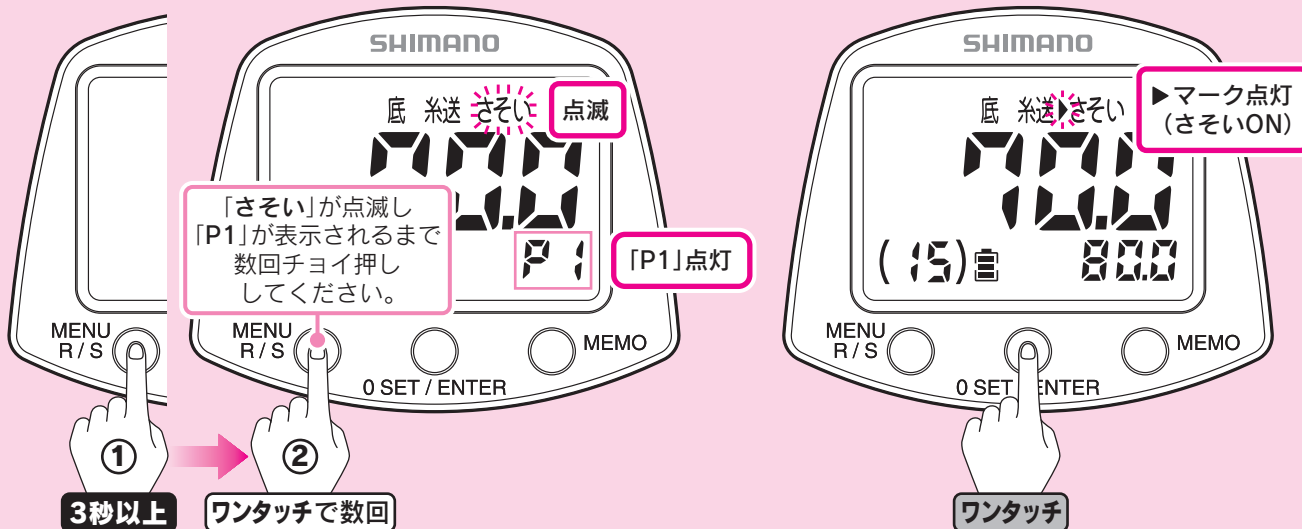
さそい「3段シャクリ」の再現



名人の「3段シャクリ」をリールが再現してくれます。

一日中シャクリ続けるイカには特に便利です。

探見丸との通信中は、電動リールだけでこの操作はできなくなりますのでご注意ください。



- 1 モーターが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを3秒以上押してメニューモードに入り、続けてメニューボタンを(3秒未満押しで)「さそい」が点滅し、「P1」が画面右下に表示されるまで数回押してください。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

- 2 決定ボタンを押すと▶マークが点灯し、さそいがONになります。
さそいをOFFしたい場合も、同様の操作が可能です。(メニューボタンの詳しい操作方法は、14～15ページをご覧ください。)

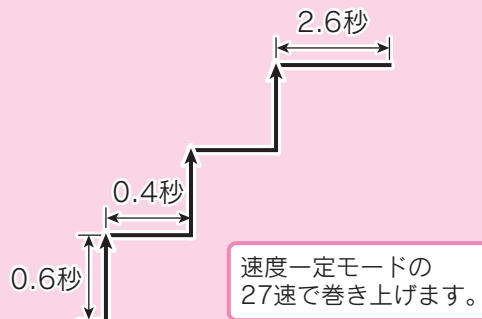
⚠ ご注意！

高切れの補正、0セットを行う場合、「さそい機能」がOFFになっていることを必ず確認してください。ONのままですとさそい動作がスタートされ、糸を巻き込んだり、思わぬケガにつながります。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。

さそい開始！



3 再度決定ボタンを押すと「3段シャクリ」のさそいパターンをくり返し行います。

さそい動作の途中停止、再スタートも決定ボタンを押します。

さそい動作中は「さそい」表示が点滅し、画面右下に「P1」が点灯します。

※さそい動作の途中でテクニカルレバーにてシカケ回収を始めた場合、さそい動作は解除され巻き上げ優先となります。

※「仕掛回収時間」をONされている場合はさそい動作を解除後、巻き上げ時間が表示されます。

※船べり停止以降はモーター停止します。

ご注意!! 3秒以上押さないでください!!

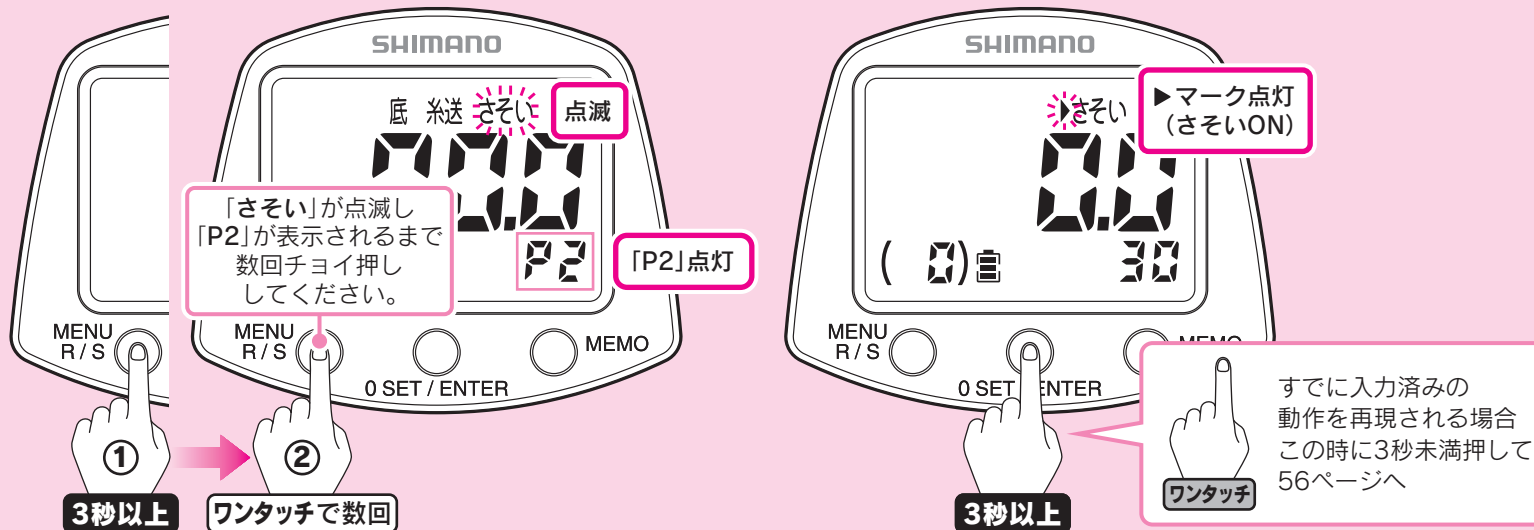
リールの決定ボタンを3秒以上押しますとリールが高切れと判断し、カウンターに誤差が生じます。その際にはお手数ですが再度糸巻学習を行っていただくか、そのままハンドルで道糸を巻き、海面までシカケを持ってきてから0セットを再度押してください。(上記の水深65mで行った場合、-65mで再度0セットとなります。)



あなたのオリジナルのさそいパターンを再現できます。

さそいモード「P2」にはお好みの動作を下記の操作で入力、再現が可能です。

探見丸との通信中は、電動リールだけでこの操作はできなくなりますのでご注意ください。



1 モーターが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを3秒以上押してメニューモードに入り、続けてメニューボタンを(3秒未満押しして)「さそい」が点滅し、「P2」が画面右下に表示されるまで数回押ししてください。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

2 決定ボタンを3秒以上押すと▶マークが点灯し、さそい学習画面になります。

この時に3秒未満押しした場合はさそいモードがONになり、「P2」に入力済みの動作を再現できる状態になります。(まだ動作を入力されていない場合は「P1」の巻き上げパターンになります。)再現を開始する場合は3秒未満押しして56ページの操作を参照ください。

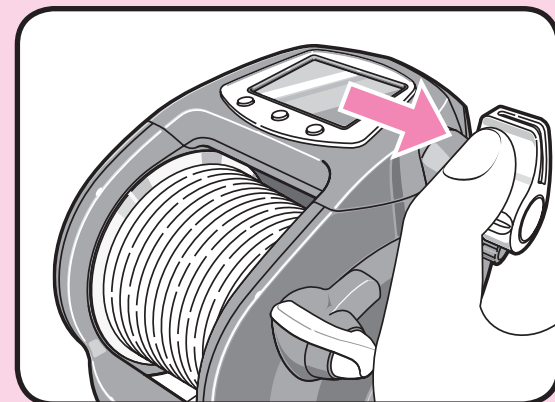
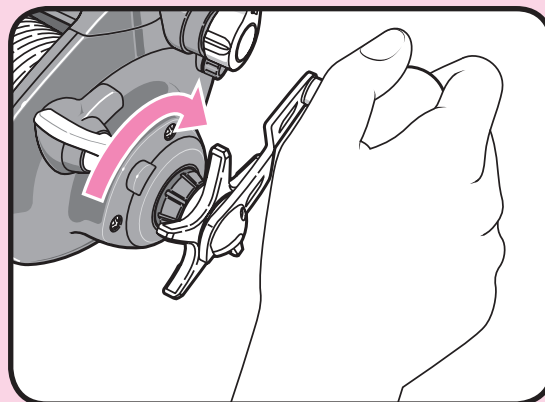
(14～15ページ「メニューボタンの操作」も合わせてご覧ください。)

⚠️ ご注意！

高切れの補正、0セットを行う場合、「さそい機能」がOFFになっていることを必ず確認してください。ONのままですとさそい動作がスタートされ、糸を巻き込んだり、思わぬケガにつながります。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



3 さそい学習は最大30秒間記憶させることができます。

画面右下に記憶可能な秒数が表示されます。

● ハンドルで入力する場合

好みの速さでハンドルを回転させ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

ハンドル1回転に2秒以上要する超スローな巻き上げは学習しません。

また、テクニカルレバーの最高速度以上でスプールが回転した場合は、テクニカルレバーの最高速として学習します。

● テクニカルレバーで入力する場合

記憶させたいタイミングと速度で巻き上げ、その後の静止状態も必要に応じて入力します。

速度一定モードでの入力のみ可能です。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



4 テクニカルレバーやハンドル操作で、お好みの巻き上げ時間、停止時間を再現してください。

巻き上げ始めると記憶を開始し、同時に記憶可能な秒数のカウントダウンが開始されます。画面中央には1動作ごとに巻き上げた糸の長さを表示します。

5 決定ボタンを押せばさそい学習が終了します。

決定ボタンを押さなかった場合は学習開始から30秒で自動的に終了します。さそい学習終了時、2秒間図のように表示されます。画面中央に総巻き上げ距離（目安）を表示します。

6 表示が標準モードに戻ります。

※新たにさそい学習を入力しますと、前の学習データは消えます。さそい学習をやり直したい場合は、再度メニュー画面から入力していただき、上書きしてください。

さそいモードは▶マークが点灯しONになっています。これでリールにさそいを再現させる準備ができました。

さそいを開始する場合は次ページへ進みます。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。

さそい開始！



3 再度決定ボタンを押すと入力したさそいの巻き上げパターンをくり返し行います。

さそい動作の途中停止、再スタートも決定ボタンを押します。

さそい動作中は「さそい」表示が点滅し、画面右下に「P2」が点灯します。

※さそい動作の途中でテクニカルレバーにてシカケ回収を始めた場合、さそい動作は解除され巻き上げ優先となります。

※「仕掛回収時間」をONされている場合はさそい動作を解除後、巻き上げ時間が表示されます。

※船べり停止以降はモーター停止します。

ご注意!! 3秒以上押さないでください!!

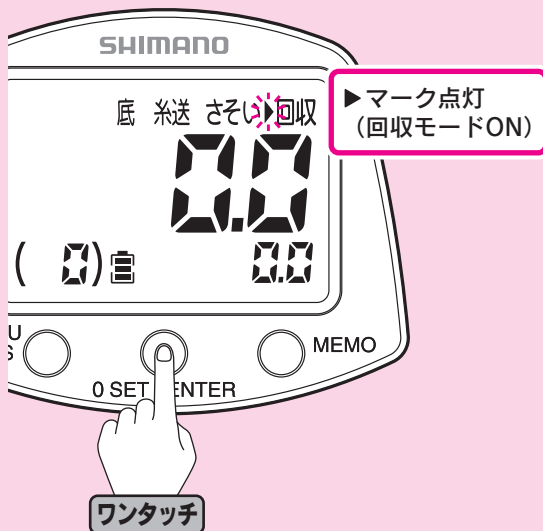
リールの決定ボタンを3秒以上押しますとリールが高切れと判断し、カウンターに誤差が生じます。その際にはお手数ですが再度糸巻学習を行っていただくか、そのままハンドルで道糸を巻き、海面までシカケを持ってきてから0セットを再度押してください。(上記の水深60mで行った場合、-60mで再度0セットとなります。)

仕掛回収時間

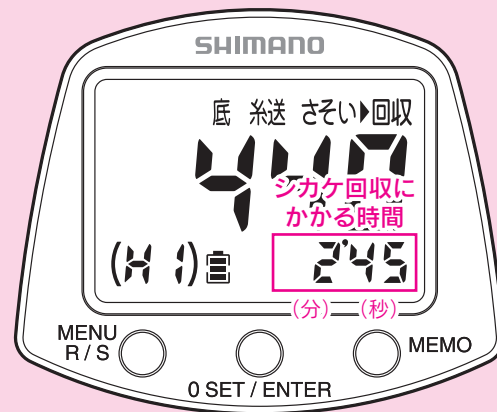


電動巻き上げ時、シカケが船べりに回収されるまでにかかる時間を表示します。

仕掛回収時間のONは下記の操作で可能です。



《電動巻き上げ中の表示》



1 モーターが停止した状態で、標準モードの時に、メニューボタンを3秒以上押してメニューモードに入り、続けてメニューボタンを(3秒未満押しで)「回収」が点滅するまで数回押してください。

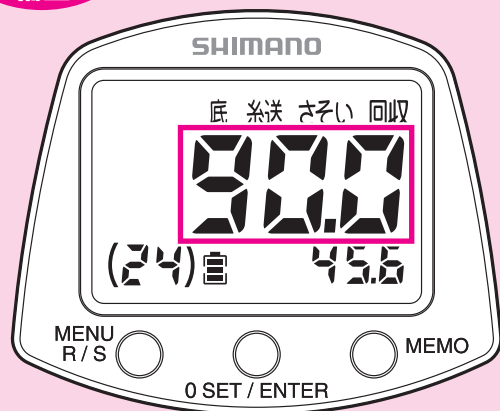
2 決定ボタンを押すと▶マークが点灯し、仕掛回収時間がONになります。仕掛回収時間をOFFしたい場合も、同様の操作で可能です。(メニューボタンの詳しい操作方法は、14～15ページをご覧ください。)

電動巻き上げを開始するとシカケ回収にかかる時間が表示されます。最大で99'59(99分59秒)まで表示し、これ以上かかる場合は「99'59」の点滅となります。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

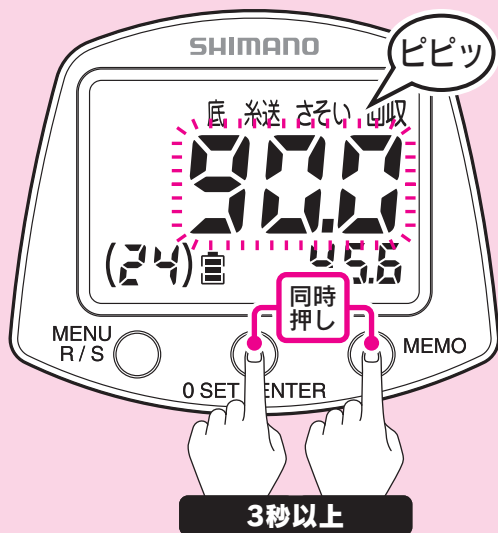
糸巻学習補正

カウンターの水深と実際のラインマーカのずれを補正することでより正確な棚取りを行えます。



- 1** カウント値が10m以上の時に有効です。現在の水深表示を切りのいい数値（少数以下を0）に合わせてください。少数以下を0にしますとラインマーカで合わせることができます。ラインの色が変わる前後（10m単位）がより分かり易くなります。※100mを超える場合、例えば表示が199から200に変わった所で合わせて頂くと、より正確な補正となります。

ご注意！ 電動リールの「さそい機能」がONになっている時は糸巻学習補正に入れません。「さそい機能」をOFFにしてください。



- 2** 決定ボタン、メモボタンを両方同時に3秒以上押しと糸巻学習補正に入ります。「ピピッ」のアラームが鳴り、水深表示が点滅します。この時、糸を手で出し入れしても表示は変わりません。ここで、実際の糸の位置（例図の場合ですと90m）を水面に合わせてください。

※補正をキャンセルしたい場合はメニューボタンを押してください。モーターの作動（補正中の巻き上げ、魚が掛かった場合等）でもキャンセルとなります。中断した場合は前回の補正値が使用されます。



- 3** 決定ボタンを押して補正を確定してください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。標準モードに戻り、補正は完了です。現在の水深表示に補正後の水深が表示されます。

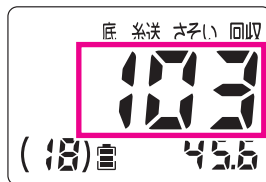
電源をOFFされましても、糸巻学習は補正されたまま記憶されます。

注意：液晶画面内の設定・数値は例として表示しています。実際と同じ設定・数値を示すわけではありません。

1

あ!

カウンターと道糸の
マーカーがずれている!!



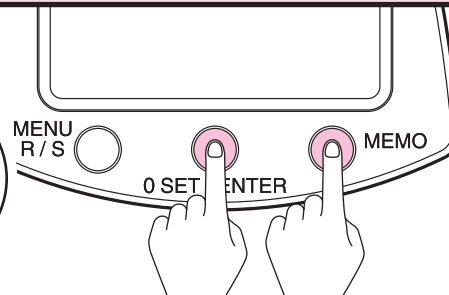
100m

海

2

その時は
糸巻学習補正
があるよ!

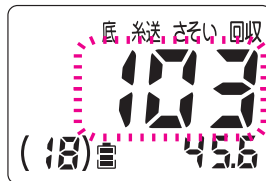
どうするの?



決定ボタンとメモボタンを
3秒以上
同時に押してください。

3

水深表示が点滅し
糸を出し入れしても
動かないよ!



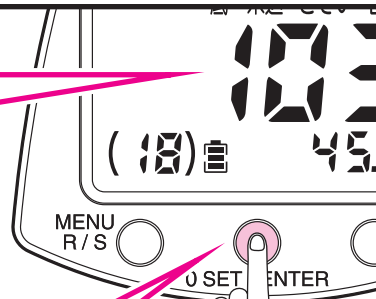
103m

4

そう、その時に
カウンター表示と道糸の
マーカーが同じになる様に
道糸を出し入れし、

決定ボタンを
押せば **OK!**
次からバッチリ!

ワンタッチ



探見丸システム接続時の機能一覧

この電動リールを探見丸に接続された場合、探見丸で下記の機能が使用可能になります。

探見丸単体の機能④⑥⑦⑬⑰を含む、下図□囲みの機能がご使用いただけるようになります。探見丸メニュー画面、各機能の詳しい操作方法などは探見丸取扱説明書をご覧ください。

対応電動リールの機種、使用される探見丸の機種により使用可能になる機能は異なります。画面図は例として表記しています。実際とは異なりますのでご了承ください。

探見丸メニュー画面 1



探見丸メニュー画面 2

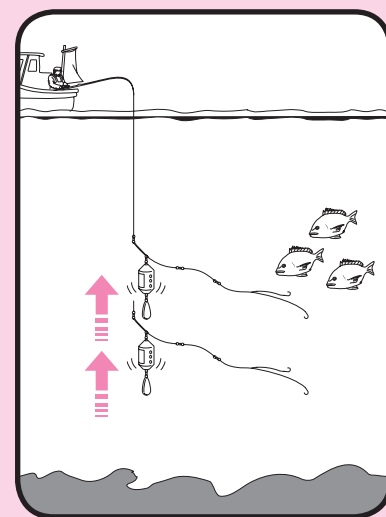


① [楽速切替]…

電動リールの楽速モード・速度一定モードの切り替えが探見丸から操作可能です。

② [さそい]…

電動リールにさそい動作を再現させることができます。さそいパターンを選択、または[学習]でオリジナルのさそいパターンを入力できます。



※イラストはイメージです。

③ [さそい幅]…

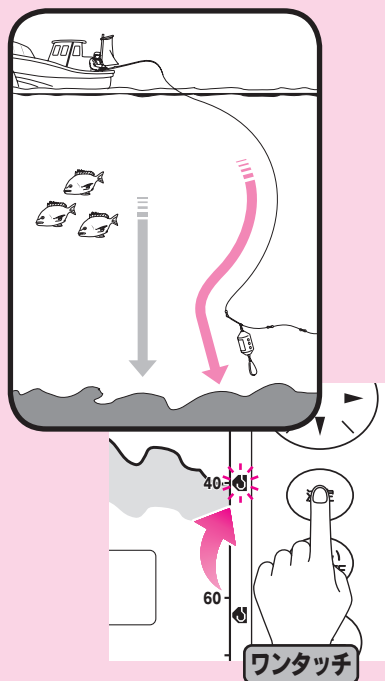
さそい動作を行う幅の指定ができます。

※探見丸子機からリール機能のON/OFFを切り替えることが可能になりますが、本製品は「仕掛回収時間」の機能を子機から操作できません。

又、リールの仕掛回収時間と子機の仕掛回収時間の表示が合わない場合があります。より正確に表示しているのはリール側となります。

⑤ [位置補正]…

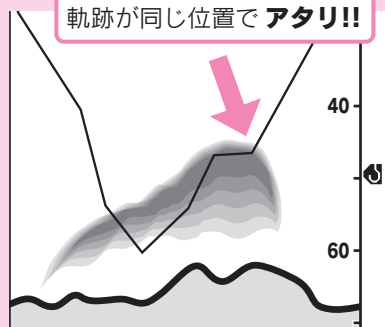
シカケの水深と魚探画面上の位置を簡易的に同調することができます。従来のカウンター付きリールが表示する水深は、あくまで巻かれていた糸の放出量であり潮の流れなどで表示水深とシカケの位置にはズレが生じていました。(右図) 探見丸システムではワンタッチでズレを補正。以後、魚探画面上のシカケマークが実際の位置を表示してくれます。
※電動リールから位置補正する場合は「さそい機能」をOFFにしてください。「さそい」がONの状態だと、位置補正を決定させる際にさそい動作が開始する場合があります。



魚探の反応と仕掛けの軌跡が同じ位置で **アタリ!!**

⑧ [シカケ軌跡]…

シカケの軌跡を表示します。どの時点でアタリがあったかなど簡単に把握でき、さそいの目安やコマセタイミング、次回投入時の参考などに便利です。



⑪ [糸送り]…

電動リールの自動糸送り機能の [ON]・[OFF] が探見丸から操作可能です。

⑫ [上底切替]…

電動リール水深表示の [上から] (水面から)・[底から] を探見丸から設定できます。

⑬ [仕掛回収]…

[ON] にするとレバー回収時に仕掛けが水中から船べりに回収されるまでの残り時間を魚探画面に表示します。

⑭ [巻上回数]…

[ON] にすると船べりに仕掛けを巻き上げた手返しの回数がメニュー画面の巻上回数欄に表記されます。

⑮ [巻上時間]…

[ON] にするとモーターが作動していた時間がメニュー画面の巻上時間欄に表記されます。

お取り扱い上の注意

本製品は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、未永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

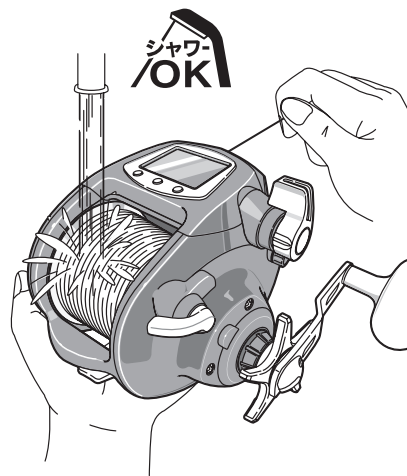
※お手入れの際には必ずケーブルを抜いて、リールを完全に冷ましてから行ってください。

1. まずドラグをしっかりと締め込んでください。
2. 水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。
※水中に浸けて洗わないでください。
3. スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を2～3m出します(図参照)これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。
4. ドラグを目一杯ゆるめ、影干ししてよく乾燥させてください。

※ケーブルのワニ口部分には海水中の不純物が付着している場合がありますので、必ず真水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。

※ベアリングの塩カミについて

S A-RB (シールド耐塩水ベアリング) はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩噛み』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩噛みを起こす場合があります。錆びている訳ではありませんが、



同様に音なり、ゴロ付き等の症状が出る場合があります。解消するためには、程度にもよりますが、S A-RB を取り出して真水で洗い流して塩抜きするか、または、S A-RB ごと交換する必要があります。メンテナンスをお受けいただくことをお勧めします。
※保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

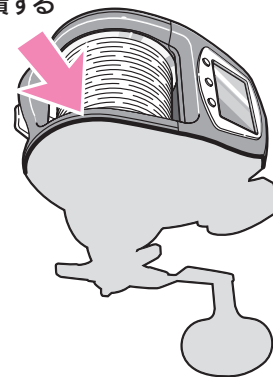
2 リールのお手入れ方法 (スプール回転性能に低下が見受けられた場合)

- 通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合(リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合)

※ケーブルは必ず抜いた状態で行ってください。

ここまで浸漬する

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて(右図参照・リール全体を浸水させないでください。) スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能がUP します。



2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。
(リール内部に溜まった水を完全に排水させます。)

上記を行っても改善が見られない場合はオーバーホールに出してください。

3 ご使用上の注意

- 電動リールの特性として、モーターがONとなっており、糸が巻き込めない状態（魚が掛かりドラッグがすべっている状態）がよくありますが、これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けると、ドラッグ部分のグリス焼け→ドラッグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上ご使用ください。
- 根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸が残らないように引き寄せて切ってください。
- リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意下さい。
- リールは落としたり衝撃を与えないよう、丁寧に扱ってください。
- 船の竿立てに収められる時は、リール後部及びケーブルに衝撃を与えないよう、また、ケーブルを折り曲げないようにご注意下さい。特にケーブルをリールと船べりの間にはさまないようにご注意下さい。
- 偏光ガラスの種類によってカウンター液晶画面が見にくくなる場合があります。
- 高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けが穂先に巻き込む可能性があります。
- 樹脂脚を採用しているリールにおきましては、金属製リールシートでご使用されますと傷が入り、最終的に破損に至る場合がございます。パイプシート内部にリール脚保護用樹脂が装着されているかどうかご確認の上、ご使用下さい。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにおきましては、クラッチをOFFにして糸を出す時は、レベルワインドは連動しません。ドラッグが滑っている時は、レベルワインドがスプールと同期しない場合があります。

弊社スペシャルリチウムバッテリー 7A (BT-021B) をご使用されますと、電動リールに高負荷が掛かった際、バッテリー内部の保護回路が働きバッテリーのブレーカーが上がってしまう場合がございます。（その場合、電動リールの液晶表示は消えます。一旦ワニ口を電極から取り外し、再度ワニ口を電極に取り付けていただくとブレーカーは復帰いたします。）

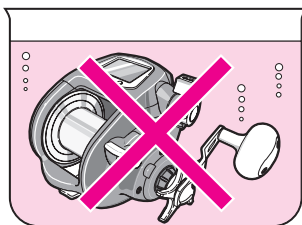
4 お手入れの方法

●定期メンテナンス - 弊社サービスへご依頼下さい。

リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、お買い上げの販売店を通じて直ぐさま弊社サービスへ、そうでなくとも半年に1度はお預けいただくことをおすすめいたします。

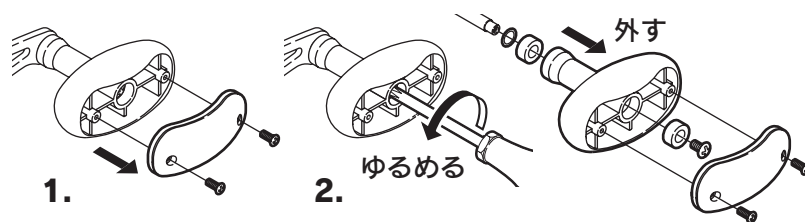
- 保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。
- リールを使用にならない時はコネクターキャップをしてください。
- リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。
- ドラッグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラッグ力が低下することがあります。
- 高温、高湿の状態で長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。

- リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。
(カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。)



●ハンドルノブの取り外し方

1. ネジ2本をゆるめて、ハンドルノブ銘板を外します。
2. ドライバーでノブ内部のボルトをゆるめて外します。



● ロッドクランプの取り付け

リールをロッドにセットし、ロッドをはさみこむようにロッドの下からロッドクランプをあてて、脚取付ケナットで固定します。

※ 1：脚取付ケナット座金

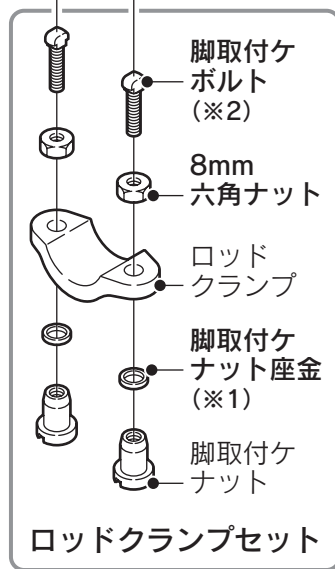
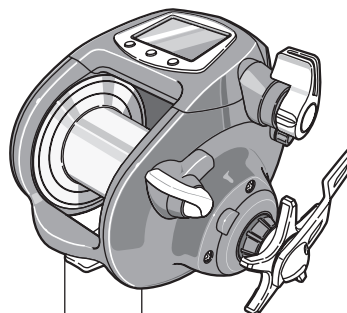
竿の径が小さいと脚取付ケナット内部から脚取付ケボルトが飛び出し、付属のリールレンチで締め込めなくなります。その場合、脚取付ケナット座金を入れてください。

※ 2：脚取付ケボルトを8mm六角ナットで締め付け時、設計上ガタが出るようになっています。

取り付け時に必要なガタの為、不具合ではありません。竿に取り付けた時にしっかりと固定されますので、安心してご利用下さい。

ご注意

- ・ ロッドクランプ取り付けの際は竿のリールシートに強度が十分あることをご確認の上、取り付けてください。
- ・ 8mm六角ナットを締め付けの際には、市販品の8mmの六角ナットレンチをご使用ください。



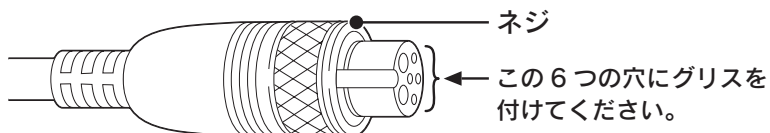
● お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう、シマノリール専用グリス（下記）を使用してください。

〔図 1〕、〔図 2〕の箇所に付けていただくようお願いいたします。

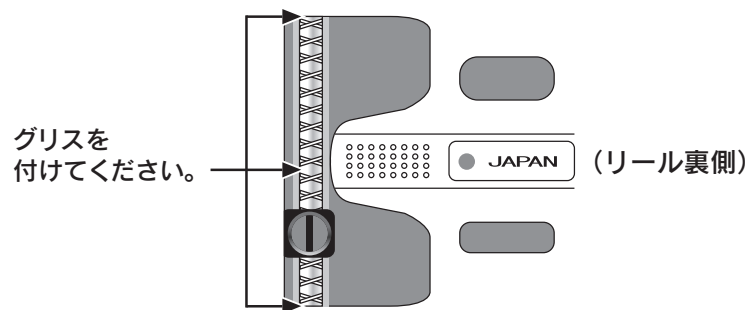
シマノ純正リールグリススプレー（SP-023A）

〔図 1〕 ケーブルの端子の6つの穴

リール本体側のケーブルの端子にも塗布していただくと、より効果的です。



〔図 2〕 ウォームシャフトとウォームシャフト両側



5 セーフティ機能

●自動復帰ブレーカー

電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため1秒間隔でモーターがON/OFFとなりますが、異常ではありません。その状態を続けますと最終的には自動復帰ブレーカーが作動し、全表示が点滅します。

作動した際は、モーター保護のためモーターをON・OFFせずに5分以上休ませてください。(この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。) 点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。

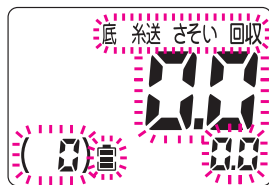
ご注意：

- ・ブレーカーが作動している間は、電源をOFFにした場合でも復帰されません。
- ・ブレーカーが作動する種類により、ブレーカー解除までに30秒～3分程度の時間がかかります。

●バッテリー検出表示

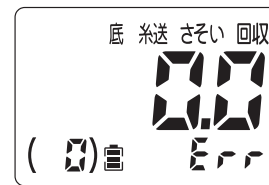
バッテリー電圧が10.5V(リチウムイオンバッテリーは13.5V)以下になった場合、またはケーブル・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーの絵文字が点滅します。

絵文字が点滅しましたら、ケーブル・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。



●テクニカルレバー断線の場合

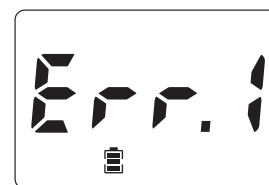
上記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」の項目を参照していただき、修理に出してください。



* 下記の Err 表示の際には糸を出したり巻いたりしないでください。糸巻学習が不正確になります。

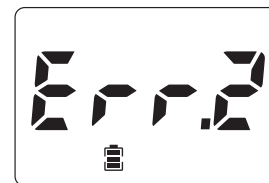
●電圧が高すぎる場合

DC28V以上の電圧がかかった場合に表示されます。ご使用の電源が12V～14.8V仕様かどうかお確かめください。



●糸巻学習操作が不正確な場合

糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。



最大巻上力

72 kg
706 N

※参考値

最大ドラグ力

25.0 kg
245 N

本製品の最大ドラグ力は、スタードラグを25kg・cmのトルクで締めこんだ時のドラグ力を最大ドラグ力と表現しています。

最大巻上速度

135 m/分

無負荷時の巻き上げ速度の値です。

実用巻上速度

1kg (負荷) 2kg (負荷) 3kg (負荷)
118 m/分 114 m/分 109 m/分

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば9000番のリールならPE8号を900m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を掛けてMAXで巻き上げます。

その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：◎電源は12.5V◎常温15～20℃(リチウム等高電圧の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。)※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

実用巻上持久力

12 kg
118 N

長時間耐久維持

できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷をどんどん増やしていった際に、最終的に電動リールのブレーカーが作動したときの負荷を表示したものです。

品番	商品コード 製品コード	ギア比	自重 (g)	糸巻量 PE [パワープロ デブスハンター船] (号-m)	糸巻量 ナイロン (号-m)	最大巻上長 (cm/ハンドル 1回転)	スプール寸法 (径mm/ 幅mm)	ハンドル長 (mm)	ベアリング数 (S A-RB/ ローラー)
ForceMaster 9000	02910 5RG409000	3.1	1500	6-1100 8-900 10-650 12-550 15-350	12-700 14-550 16-500	88	90/62	75	3/0

●標準付属品

ケーブル1本 (Type-B)、取扱説明書、分解図、糸通しピン、リール袋、保証書、ロッドクランプセット、リールレンチ

※本製品に付属しているケーブルはType-Bです。

●電源 (直流)

DC 12V (リチウムイオンバッテリー可)

●夢屋パーツ取り付け可能

ハンドル			ハンドルノブ
BH-4	BH-5	専用品	B

●ご注意

PE5号以下を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールとフレームのすき間に入り込んでしまう場合がありますので注意して下さい。

故障かな？と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中等）にさらされた時に生じる場合がありますが、温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーとケーブルの（+）（-）とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 ケーブルのワニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P.16～17
液晶が表示しない。（極寒で使用の場合）	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 （電源がONの状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。） 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18～33
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18～33
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.18～33
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われます。水面での0セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m～6m未満の範囲です。 0m～1m未満のセットは安全のため1mに設定しています。	P.38～39 P.42
液晶表示はするがモーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温（0℃以下）になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源ONしておいてください。 また、カウンター1m以内では安全のためモーターは作動しません。	P.16～17 P.12

《次ページに続く》

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールやケーブルのコネクター部分がサビしていると、通電不良を生じます。サビを落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.16～17
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	
カウンターにErの文字が表示される。	セーフティ機能に基づくエラーメッセージです。「セーフティ機能」のページをご確認ください。	P.66
電源投入時に英数字が2秒間表示される。	識別のための表示で、故障ではございません。表示内容は機種ごとに異なります。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて本製品が正常に作動することをご確認くださいませお願いいたします。

(1.1m以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。)

以上の確認を行っても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。
手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

- 修理に出されるときには保証書と製品、ケーブルをお持ちになり、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。
その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。

また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。

修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

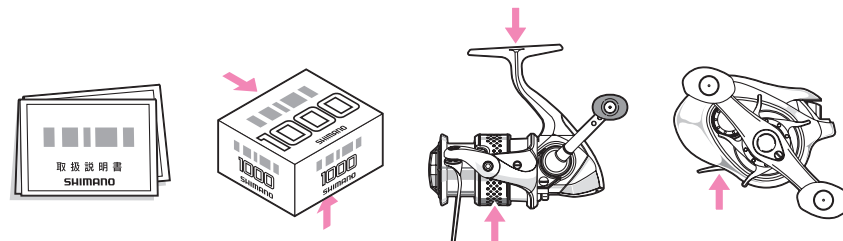
- ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧ください、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店にご注文ください。
（内部の部品に關しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお勧めします。）

例／製品名 : ForceMaster 9000
商品コード : 02910
製品コード : 5RG409000
部品番号 : 2
部品名 : ハンドル

- 弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性がございます。

●商品コード / 製品コードの位置

取扱説明書・分解図・パッケージ底面部もしくは側面部に製品コードの上5ケタ及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。



株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ 北海道営業所

〒001-0925 札幌市北区新川5条1-3-50 TEL. (011)716-3301

株式会社シマノ 仙台営業所

〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町2-17-10 TEL. (022)232-4775

株式会社シマノ 埼玉営業所

〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1 TEL. (048)772-6662

株式会社シマノ 東京営業所

〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17 TEL. (03)3744-5656

株式会社シマノ 静岡営業所

〒410-0807 静岡県沼津市錦町674 TEL. (055)962-3983

株式会社シマノ 名古屋営業所

〒454-0012 名古屋市中川区尾頭橋2-6-21 TEL. (052)331-8666

株式会社シマノ 大阪営業所

〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3-77 TEL. (072)223-3920

株式会社シマノ 中国営業所

〒700-0941 岡山市南区青江6-6-18 TEL. (086)264-6100

株式会社シマノ 四国営業所

〒768-0014 香川県観音寺市流岡町1496-1 TEL. (0875)23-2220

株式会社シマノ 九州営業所

〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜4-6 TEL. (0942)83-1515

株式会社シマノ 釣具事業部 本社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ

フリーダイヤル ☎ 0120-861130 (ハローイイサオ) フリーダイヤルをご利用できない方は 072-243-8538 (有料) をご利用下さい。受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00 (土・日・祝日除く)

■シマノホームページ アドレスは <http://www.shimano.com> です。

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。また、カタログのお申し込みも受け付けています。

■シマノi-mode情報 アドレスは <http://fishing.shimano.co.jp/i/> です。

Printed in Japan 039t

SHIMANO